

特集 オープンキャンパス～来て見て山大!!～

人文学部

大学生活

人文学部 言語文化学科 中国語文化論コース 4年 大村 文恵

所属コース

私は中国語文化論コースに所属しており、中国語学を学んでいます。外国語を身につけるには、根気と努力が必要、そんな私が取った方法は留学です。大学では、長期休暇を利用した短期留学の企画や、交換留学など様々なチャンスが用意されていますので、自分の興味や関心に合わせて挑戦できます。留学生活を通し、素敵な人々との出会いや異なる文化に触れ、新しい価値観を得ることができました。また、最近韓国語も履修し始め、同じ漢字圏である日本・中国・韓国を多面的に見ることで、ますます言語や文化について興味深く感じています。

学生生活

一番の収穫は、様々な人々に出会うことができたことです。ボランティアサークルに所属していたので、他大学の学生、子どもたち、血液センターの職員さん等と

の出会いがありました。そこで感じたのは、自分が成長していけるような実感でした。自分が誰かのためにささやかなことでも力になればと思って始めても、結局は逆に自分が支えられていたことに気づき、それが自分を生かしてくれているのだと感じたのです。純粹に、活動や学業でもやりがいを感じることはできたのは、やはり出会った人々や多くの喜びや苦しみ分かち合える友達がいたからこそだと思います。

夢

大学に入学して、早くも4年間で過ぎました。希望と夢をもって、学生生活を謳歌することができたと思っています。「判断力・行動力・そして夢を育む創造力」それを大学生活で実行することに努めていました。ここで学んだことは、今後も自分を支えてくれるパワーになることでしょう。残り少ない学生生活を自分の夢を叶えるために、精一杯過ごしたいと思っています。



留学中に友達と記念写真（蘇州にて）右端が筆者



English Course

人文学部 言語文化学科 英米語文化論コース 3年 川野 智裕

イベントがいっぱい

人文学部は2年生になると学科をさらに専門ごとにコースに分けられます。私の所属している英米語文化論コースもその一つです。授業では真剣に英語について学んだり英米文学を読んだりしているのですが、このコース、それだけじゃないんです。1年間のうちに楽しいイベントがたくさんあります。その中でも英米2大イベントと言われているものを紹介しましょう。

英米合宿

2大イベントその1は、この合宿です。5月に1泊2日で行われます。合宿って何をするのかと言うと、まず1日目の昼間にスポーツをしてふれあいます。今年はソフトボールをしたのですが普段は見られない先生のパワフルなスイングに驚いたり珍プレー好プレーでしっかり楽しめました。その後、

貸し切りバスで宿泊所へ移動して朝まで宴会です。寝たくなった人から寝室へ移動していくのでだんだん人が少なくなるのが印象的でした。それまではゲームをしたりいろんなことを語ったりして過ごすのですがゲームでは先生とみんなの協力もありビンゴやジェスチャーゲームなどで大いに盛り上がりました。また綺麗な音色の楽器を披露してくださる先生もいて意外(?)な才能に感動しました。

2日目は朝まで起きていた人もいてみんな眠たい目をこすりながら早々に帰宅します。一見無茶に思えるこんなことも大学生だからできることなのかな、と思います。でもこの合宿で英米のメンバーの仲も深まります。

クリスマス会

2大イベントその2は、12月にあるクリスマス会です。2、3年生が全員で英語劇を演じたり、プレゼント交換をしたりでホントに楽し

いですよ。劇は4年生に評価してもらいアカデミー賞のように優秀男優賞、女優賞などもあって本格的で、本番に間に合うように2ヶ月前くらいから徐々に練習して披露するのです。練習は昼休みなどにこまめに集まってやるのですがその過程も楽しいですよ。去年は「白雪姫」の台本をアレンジして面白い感じで楽しく出来ました。私としても小人と馬の二役を演じて助演男優賞を受賞しました。プレゼントは値段制限のなかでいかにセンスあるものを買うかが問われますね。中にはパイナップルまるごと、なんていうものも・・・。

というわけで二つしか紹介できないのが残念ですが英米ではこの他にもいろんなイベントが行われます。明るくノリのいい先生方、たくさんの友達と一緒に楽しく学びませんか？きっと充実した大学生活が送れるでしょう。



充実した大学生活！

人文学部 人文社会学科 社会情報論コース 3年 小田川 志穂

人文学部とは

山口大学人文学部って何ができるの？3年目になる私なりの感想です。人文学部は何でもできます。理系科目は無理ですが、英語からラテン・ギリシャ語、歴史から哲学、美術、書道まで可能です。学科やコースが違って受けることができます。経済学部も少し受けられたりするのです。それは、人文学部が幅広い教養を身につけることが目的だからではないでしょうか。どれを学ぶかは学生自身に委ねられているのです。大学での授業は、大きく分けると各学部の科目と全学部共通の科目とがあります。人文学部は共通の科目も、他学部に比べほとんど制限がなく、自分の好きな科目を取ることが出来ます。

コース

2年生で各コースに分かれ、3年で担当教授が決まります。これは成績順！というわけではなく、できるだけやりたいことがやれるように、先生方がきちんと対応してくれます。人文社会学科は四つのコースに分かれます。私は社会情報論コースに所属していますが、このコース、とにかく自由です。自分の好きなことが学べます。また学生同士の仲もよく、飲み会などもよくします。自由時間もすごく多いと思います。

部活

その自由時間を何に使うか。私は部活に使っています。部活をすると大変でバイトができないと思う人もいるかもしれませんが、私は両方しています。アイスホッケー部に入っているのですが、確かに大変です。それはどの部活をしても同じだと思いますが、大学では高校までと違い、責任も一手に学生が背負います。でもだからこそやりがいも大きいし、同じ苦労を通して解り合える仲間もできます。これはとても大きな財産です。また、他大学や社会人とも交流が持てます。ホッケーでは他大学やクラブチームの練習に参加させてもらうことはよくあることなので、九州や中四国の人と知り合う機会が多いです。いろんな考えの人と出会えるので、自分の幅が広がる気がします。

何かに打ち込む

大学生活は自由に使える時間が多いです。夏休み・春休みが2ヶ月ずつありますし。だからこそ一つでも二つでも何かに打ち込めるとものすごく充実します。部活、旅行、音楽、研究、何でもいいのです。何か一つあれば楽しいし、自分のためになります。大学は、高校までの誰かが責任を持ってくれている立場から、自ら責任をとり、自分の力で生きていく社会人になるための準備・移行期間だと私は考えています。人文学部は学業も時間も自由です。だから、できるだけ色々な場所に行き、沢山のひとと交流してください。せっかく総合大学ですしね。そして色々な考えを聴き、学び、自分の幅を広げましょう。自分で時間をやりくりして、したいことをとことんしましょう！！そうすればとても楽しい大学生活が送れますよ。



教育学部



大学生活について

教育学部 学校教育教員養成課程 音楽教育選修 2年 納村 幸季子

自身で選ぶ

私は大学生活を毎日変化あるものにしていきたいと考えています。

高校まで学んできた学校の勉強というのは、与えられたものをこなしていくというものでした。大学の授業も、もちろん決められたものもありますが、最低限の勉強だということが最近よくわかります。というのも、行動さえあれば自分を成長させる材料がたくさんあるからです。将来の夢を持って

いる人、やりたい事がある人、自分の枠を広げようとしている人は本当に輝いています。

大切なもの

机の上だけのものが勉強ではありません。山口大学には地方から多くの人がきています。地元にはわからない地域のこと、また、地元を振り返ることで家族の大切さに気づきました。そして家族も含めここに来なければ出会わなかった友達、先生方、すべての

人に感謝する気持ちを持つようになり、今ある繋がりを大切にしていこうと考えています。

これからの私

大学時代の経験は、これからの自分をどれだけ豊かにしていくかがかかっている気がします。高校生時代自分のことも十分にできず、自分で考える前にすべてが準備されていた私は、今一歩ずつですが前に進もうとしています。





時間いっぱい大学生

教育学部 総合文化教育課程 文芸・芸能コース 2年 因幡 勇治

大学生活のスタートと共に、一人暮らしをスタートする人も結構いるでしょう。大学生になって一番大きなことは、時間の使い方を自分で決めるようになることだと思います。特に一人暮らしをはじめると最初は、一日の時間がこんなにあったのかと思うぐらいに時間があるものです。単純に計算すれば、夕方の17時40分までは授業、それからはフリーです。もちろん授業のない時間もありますから、もっと空き時間が作れます。そんな時間をどうしようと思ったら、サークルに入ることをお勧めします。大学の授業ではたいてい同じ学部・学科の人としか関わる機会がありません。他の学部・学科の人と関わるのはなかなか難しいものです。そこで、サークルに

入れば幅広い人間関係が作れることは間違いありません。

演じる。

僕は「劇団笛」という演劇サークルに入っています。16年目を迎える、まあまあ長いサークルです。演劇は見たことあってもやるのは、なんて言う人が大多数だと思いますが、そんなことは全くありません。楽しいです、間違いなく。初めて演劇をやるという人もたくさん入ってきますが、初めてだったことを感じさせないぐらいに、みんな舞台上で演技をするのが上手くなっています。年3回公演のペースでやっています。それに向けての毎日の練習も、発声、基礎体力、基礎技術の向上。

結構、汗を流してみんなやっていますが、それが苦にならないぐらい団員でわいわいやってます。

演劇は他人を演じるわけですが、それはとても大事な事じゃないかなと考えます。大学にきて沢山のひとと会う中で、今まで自分が見たこともない価値観の持ち主に会うことも多々あります。演劇をやっているという異なる価値観の持ち主を演じることがよくあります。そんなとき、何故この価値観を持ったのだろうと、脚本を深く読んで考えるわけです。そこで理解が出来た時、その人物を演じられた時、自分の価値観がぐんと広がります。そしてそれは、大学生活において他の人と親密になれる力になったりします。あなたも入ってみてはどうでしょう？



Nothing around.

教育学部 情報科学教育課程 表現情報処理コース 3年 柳本 祐一郎

学科について

私の所属している学科である、表現情報処理コース（以下、表情）では 芸術表現と情報処理の関連について研究しています。

開講されている専門授業は大きく2つの分野に分かれており、CG・映像製作、音響構成などの表現系のものと、線形代数・微積分、C言語などの情報系のものがあります。

課題・レポートも多くなかなか大変ですが、得るものも多く、メディアアートに興味がある私にとって「表情」は、とても適した場所だと思います。

現在も卒業制作で自分の納得のいく作品を製作するために、授業以外でも積極的に学習しています。

課外について

私は授業と並行して課外活動にも力をいれており、学科に関連した3つの分野の活動をしています。

・演劇

私は2年次まで文化会演劇部に

所属し、部員のみんと大学会館での定期公演に向けて、日々練習していました。ここで培った表現力や行動力、多くの人たちとの繋がりは演劇以外の活動においても、かなり可能性を広げてくれるものになりました。現在でも長期休暇中にCS赤レンガなどで公演を行っています。

・作曲

演劇活動と並行して、音楽活動にも力を入れており、1年次に仲間と音楽創作サークルを立ち上げました。楽曲やCDをメンバーと共同制作したり、大学祭などでイベントを行ったりと、実際に自分の作品を形にして、それが評価されたときは、他にはない大きなやりがいを感じます。

・情報

他にも情報系の知識を高める為に情報系サークルに参加したり、最近では「山口大学ラボプロダクション」という団体でも活動しています。ここでは大学の放送番組「デジタル山口大学」や大学Webページのコンテンツである「キャ

ンパスライフ」を製作していて、映像編集の勉強をしています。

最後に一言

「大学」は霧に覆われた場所だと思います。

確かに、大学生活にはたくさん自由になる時間があり、授業や施設、サークルなどの環境もあります。しかし、そういった「見えているもの」だけが全てではないし、それだけでは何も出来ません。それらはきっかけにはなりますが、ほんのさわりでしかないのです。何もないようにも思えるし、簡単に違う方向へ流されてしまうこともあります。「見えているもの」の中から何かを見出した後は、自分で行きたい方向へ手探りで進んでいく必要があります。

もし、人それぞれに動作環境の違いがあるとすれば、それは「意欲の大きさ」だけだと思います。ぜひ、自分の目的地へ行くための最適策を見つけ出して、よりよい4年間を過ごしてください。



サークルメンバーと新フェスでパフォーマンス演奏



リポーターとして番組に出演することも

経済学部

私のキャンパス・ライフ

経済学部 国際経済学科 2年 竹本 久美

私はAO生

AOとはアドミッション・オフィス入試の略で、他の選抜試験と異なり、より人物を重視した試験です。10月に合否が決まり、12月に合格した全AO生を対象に合宿を行います。他の受験生より一足早く大学が決まるので、大学生活が早く始まる感じがします。合宿では、経済学部以外の友達もでき、入学式までのガイドラインを示してくれるので、一人暮らしをする者にとっては強い励みになりました。

授業について

大学の授業は高校と異なり、自分で時間割を作りますが、1年目は必修の科目が多いため、時間割

を作らされている感じでした。しかし、2年目から多くの選択科目の中から興味のある授業を受けるため、時間割を作るということが実感できます。

私は高校のとき、ウズベキスタンの友達から自爆テロの話を聞いたことがあります。あまりの生々しさに衝撃を受けるとともに、なぜこのようなことが起こるのか関心をもちました。

今、私は国際問題や国際経済など、高校時に関心をもった事柄に関連する授業を受けています。そのため、充実した大学生活を送れていると思います。

フレッシュマンセミナー

経済学部の新入生は、フレッシュマンセミナーという授業を2日間必ず受けます。この授業は上回

生が企画し、運営します。今年、私は企画運営スタッフとして参加しました。学生スタッフや担当の教授など、ほとんどが初対面のため初めは不安でした。しかし、スタッフで会議を重ねていくなか、皆が結束し協力できたことで試行錯誤の末、企画（日程表の作成・学生スタッフの役割分担・全体レクリエーションの企画等）を作り、本番をのりこえることができました。1年生から「楽しかった」「参加して良かった」などと言われた時は、本当に参加できて良かったと思えました。

スタッフ一丸になって一つのことをやり遂げた充実感と達成感は、何ものにも代えられない素晴らしいものです。この経験は、これからの大学生活だけでなく、就職活動や社会へ出てみかせる有意義なものだと思います。



経済学部ゼミナール連合協議会について

経済学部 経営学科 3年 学生ゼミナール連合協議会 会長 城崎 豊治

私は今、経済学部ゼミ連の一員として活動しています。ゼミ連とは何かを一言で言えば、生徒会のような組織です。経済学部の行事には、「学部長杯争奪ソフトボール大会」、「学生討論大会」、「卒業記念パーティー」などがあります。これらの諸行事を企画・運営していくのがゼミ連なのです。

山口大学に入学すると、皆さんは「演習（ゼミ）」に所属することになります。ゼミは少人数で構成され、学生が主体となって運営していくものです。自分の興味があることに取り組み、ゼミ生同士で議論を行ったりする場なので、

大学における勉学の中心となることでしょう。

このようなゼミ活動を円滑に運営していくために、ゼミ連が活動しているわけです。ゼミに所属して間もないころはコミュニケーションもうまく取れないでしょう。そこで前期中にソフトボール大会を開催します。練習していく中で、「ゼミがまとまり始めた」という声も聞きます。まとまりができてくれば、ゼミ内での議論も活発になってきます。そこで、ゼミ内という枠を超えて他のゼミと討論する機会をつくるために討論大会を開催するわけです。討論大会は全国規模で開催される大会もあり

ますから、他大学のゼミ生とも交流を深めることができます。

ゼミ連の活動をしていて一番うれしいのは、参加者の方から、「参加してよかった、自分にプラスになった」等の感想を聞いたときです。もちろん運営を進めていく中で、ゼミ連内で意見がぶつかることもあります。誰かが嫌な思いをすることもあります。しかし、参加者の一言で「やってよかったな」という気持ちになるのです。活動していく中で、経済学部OB会の「鳳陽会」の方や、教授の方からお話を聞く機会も多いので、よい経験ができますよ。





職会モニター生としての 1年間とこれから

経済学部 経営学科 3年 生駒 諭

私が山口大学に入学して早いもので3年が経とうとしています。大学の授業もほぼ終わり、これからは自分が何をやりたいのかを真剣に考える時期になったのだと思います。

私には、将来の目標として『公認会計士』の資格取得があり、現在それに取り組んでいます。

「『公認会計士』ってどんな資格なの？」というのが皆さんの第一印象だと思います。

『公認会計士』とは、会計のスペシャリストとして、社会の健全な発展に重要な役割を担う仕事をする国家資格です。この試験は何年勉強したから受かるというものではありません。独学で合格するこ

とはとても厳しく、大半の人は専門学校に通っています。残念ながら、今まで山口市周辺には専門学校はなく、せいぜい通信講座で勉強するぐらいでした。

しかし、昨年経済学部が大原簿記公務員専門学校と提携した、職業会計人コース（公認会計士、税理士を目指す人のためのコース）が設置されることになり、自分がモニター生として勉強出来るようになりました。今年度から職業会計人コースが動き出しましたが、私は昨年のコースの立ち上げからのモニターとして、ただ勉強するのではなく、勉強のやり方、教室または自習室等の環境作りなど改善点を提案し、解決していくとい

う苦労した部分もありました。最近では、瀧口学部長・山下先生・吉水先生のお力もあり、自習室も新設され（H17年6月完成）、より勉強に集中出来るようになりました。モニター生として1年ほどたちますが、毎日ステップアップしている自分を実感し、充実した日々を送っています。

今年度から、職業会計人コースの学生とともに、お互い切磋琢磨しながら頑張っています。来年の合格を目指し、精一杯頑張りたいと思います。そして残りの大学生活を楽しく有意義に過ごしたいと思っています。





サークルで私が学んだこと

経済学部 経営学科 3年 岡山 恵多

私はE.S.S. (English Speaking Society) の部長をしています。E.S.S.は英語の勉強をするサークルです。英語で討論、ドラマ公演などをやり、それを通してより実践的な英語能力の習得を目標としています。放課後に経済学部の教室を使って活動しています。

部長というのはとても大変な役職です。部長は部員のお手本にならないといけないので活動中は気が抜けません。活動時間外も活動予定を作ったり、部員の相談事に応じたりしています。

自分はあまり部長に向いていない性格だと思います。私は自己中心的な考え方をするし、何より人をまとめるのが苦手です。部長に

なりたての時は会議の進行を上手に出来なかったのが3年生に協力してもらい何とかしていました。私はこれではいけないと思い、自分が部長として何が出来るか考えました。

まず部員に上手に仕事を割り当て、仕事を円滑にこなすことを学びました。適当に割り当てるのではなく各部員一人一人の特性を把握して適材適所を考慮して割り当てるようにしています。やはり人には得意・不得意があります。貴方が何らかの組織に所属している時、出来ない仕事を無理にする必要はないと私は考えています。その仕事に向いている人が組織の中にいるならば、その人によって

もらうのが貴方のためですし、何より組織のためです。責任感を持つことはいいことです。しかし変にプライドに固執して不得意なことをしてミスを犯せば、それは貴方だけでなく組織全体に迷惑がかかります。これは部長である私にも言えることです。部長だって人間なので出来ないことがあります。私は円滑・迅速・確実に仕事をこなすことをモットーとしています。

自分の能力を客観的に見ることでできれば少なくとも組織に迷惑をかけることはありません。そういう全体を見る能力、自分を客観的に見る力というのは社会に出ても絶対役にたつと思います。



理 学 部



能動的

理学部 化学・地球科学科 化学コース 3年 秋好 遵

高校とはここが違う

大学では、受動的だった高校までとは違って、能動的なものになっています。つまり、自主性が求められます。そのため、高校までの生活と同じように教えられるのを待っているだけでは、手痛いしっぺ返しを受けることがあります。知ろうとして行動しなかった自分が悪いということになります。しかし、そのことさえ、意識においておけば、かなりの「自由」があると言ってもいいでしょう。勉学においては、受講する講

座をある程度選択できます。例えば、理学部にいる私が、経済学部 of 講座を受けることも可能です。まあ、色々面倒な手続きは必要ですけどね。

課外にて

山大には、さまざまな部活、サークルがあります。そこでは、机に向かうだけでは得ることのできない経験や知識を得ることができます。私は、武道会に所属しているのですが、そこで得たもので最も有益だと思っているものは、

「礼節、マナー」です。お酒を飲む場でもマナーが存在するのを知っていましたか？詳しく知りたい方は、山口大学武道会空手部に御入部を(笑)。

終わりに

山口大学は、勉強面、生活面にかかわらず様々なことを学べる場所です。しかし、それらを学ぶためには、能動的に行動していくことが不可欠です。せっかく学べるチャンスが転がっているのに学ばないのは損ですよ。





私の大学生活

理学部 化学・地球科学科 化学コース 3年 石田 大輔

私は理学部の化学・地球科学科に所属しています。中学の頃から化学系の分野が好きで、この大学のこの学科を志願しました。

私はこの大学に来た当初は不安でした。それは、初めての一人暮らしを始めなければならないことと、大学という環境に慣れられるかどうかということが心配だったからです。しかし、それは杞憂でした。と言うのも、一緒に馬鹿を

できる学友と親身になってくれる教員がいたからです。

中学や高校の頃と違い、今は大学の授業の半分くらいを実験が占めており、その他の授業ももっぱら化学の授業です。と言うとなんだか勉強ばかりのイメージですが、実験中は仲間内でガヤガヤやっているとというのが実際の現状です。

この大学は山口という日本の中では少し、いやかなりの田舎に位

置しています。それゆえに夜にはかなりの数の星が出ますし、大学の離れにある農学部の手んぼには螢が夏に確認できます。夏前にはたぬきが目撃されたりと、自然に囲まれた、と言うよりまさに自然の中にある大学です。そんな豊かな自然の中にある大学で私は蛙が鳴き終える朝まで学友と吞んで回ったり、勉強会で夜を明かす日々を送っています。



キャンパスライフ

理学部 化学・地球科学科 化学コース 3年 有吉 智幸

大学生といえばジーパンにTシャツといったラフなイメージでしょうか。実際は結構イメージ通りで、大学生は自分に自由に使える時間があります。その時間は例えばサークル活動をしたり、アルバイトをしたりできます。しかしその自由に使える時間をいろいろな人と共有することでとても充実した時間を送ることができます。

大学生活といえばなんといっても交友関係が深まるというのが一番の魅力でしょう。大学は全国各地から大勢の人たちが来ています。同じ学科の中でもいろいろな地方の出身者が多いため自分の活

動範囲が広がることは間違いないでしょう。またいろいろな県に知り合いが増えることにより、旅行などもその地域の人に案内してもらうことができ、普通の観光ではわからない隠れた名店などを知ることができます。実際僕も長期休みのたび各地に旅行をしています。ホテルに泊まらず友人の実家にお世話になれば宿泊代も掛からずに済みます。

そこで心配になるのは、友達が簡単にできるかなということですね。僕もどちらかというと消極的で入学当初は不安でいっぱいでした。しかし大学には様々なサークルがあり、多いところでは50人を

超えるサークルもあります。またサークルに入らなくても学科内でいろいろなイベントがあります。僕の学科も半期に1回ソフトボール大会があったり、春には花見をかねて川原でバーベキューをしたり、友人作りには問題はありません。またそのような場で先生や先輩とも知り合う機会があります。

僕の大学生活は周りの人とともにいることで成り立っています。先輩や友人の情報は重要で、時には授業以上に得られる知識が大学にたくさんあります。私のキャンパスライフの楽しみ方はこのような人との付き合いです。





あなたはなにがしたいですか

理学部 数理科学科 3年 梁瀬 晃

あなたは大学にはいったら何がしたいですか。サークル、バイト、勉強・・・、いろいろあると思います。自分はこれまで、富士山の8合目で1ヶ月間生活してみたり、バカな仲間と祭りをつくったり、寮改築の問題の際に特別委員会を組織して学校側と交渉したり、山口県立大学の人と合同で香月実行委員会を組織して、ニューヨークなどで海外公演しているプ

ロの劇団を山口に招待して市民会館で公演してもらったりと、いろんなことをしてきました。そこで一つのものを作る感動や、みんな本気だからこそのぶつかりあい、また社会人の汚いやりとりをみる等、様々な経験をしてきました。これらを通して思い、伝えたい言葉があります。

やりたいことがあるならば、とりあえず本気でやってみる。そし

てそれが失敗しても成功してもそこから得られるものは必ずあり、それは自分の血となり肉となり、いずれ自分に役立つものになる。大事なのは本気でやること。だから何でもいいからまずは本気になるもの、なれそうなものを見つけて、見つけたらブレーキなんかぶっ壊していけるとこまでいってしまえ。



医 学 部

医学部座談会

今回は医学部自治会の皆様に協力して頂き、山口大学医学部について話して頂きました。メンバーは医学部医学科自治会会長 二ノ坂建史君（医学科4年）、保健学科自治会会長 清水勇輝君（検査技術科学専攻3年）、保健学科自治会副会長 清水恵子さん（看護学専攻3年）、保健学科自治会会計 櫻木靖子さん（看護学専攻3年）の4名の方々です。

——— 山口大学医学部の学生の特徴は？

二ノ坂 医学科はみんな仲がいいですね。イメージ的には暗そうに思われているけど、本当はかなり明るいですよね。あと、部活や医学祭などを通じて友達が多く出来るから、とりあえず部活とかには参加したほうがいいと思います。

櫻 木 みんなとても仲がいいですよ。私は部活でラグビー部のマネージャーをしているけど、看護学専攻だけでなく医学科や検査技術科学専攻の友達もたくさん出来ました。



写真 後列 左 清水 勇 右 二ノ坂
前列 左 櫻木 右 清水 恵

清水恵 山大学生は本当に穏やかで、いい子が多いと思います。そういえば、普段話す機会が無くても実習などを通じて仲良くなった人もいました。また、実習に出ると患者さんのことを中心に考えていこうという意欲をみんなから感じます。

清水勇 検査技術科学専攻は1クラスが40人と高校のクラスくらいだけど、同じく仲がいいよ。クラス全体でポロシャツとかを作り、スポーツマッチに出場したし、何より団結力があります。

——— 山口大学医学部で学ぶ上でいいと思うことは？

二ノ坂 医学部の勉強は確かに大変です。学ぶ環境としては、24時間図書館が利用できるし施設面は充実していて便利ですね。また、部活がこんなに出来ると思わなかったし、嬉しい誤算でした。

清水勇 山大的検査技術科学専攻は、全国でも数少ない細胞診などの高度な検査技術の勉強ができます。自分はその細胞診の勉強をしたくて山大に来ましたが、本当に満足していますし、最高です。細胞診の勉強をしたいと思っている方は、ここ来ると絶対に満足できると思います。

清水恵 看護学専攻では看護師だけでなく、保健師、助産師の国家試験受験資格が得られるし、養護教諭2種の免許がもらえます。

櫻 木 今年からは修士課程の大学院も設置されたから、さらに専門的に学ぶことができます。

清水恵 更に上を目指そうとしている人にとっては、是非山口大学医学部に来るといいと思います。

——— 将来の目標は？

二ノ坂 僕はビッグな人間になりたいです。やさしくて包容力のある医師になりたいですね。患者さんとの間に仕切がないというか、親しみやすい医師になりたいと思います。たまたま入院したことが、自分にとって良い経験になっています。

櫻 木 知識も十分付けなければならないけど、私は患者さんに頼られる存在になりたいです。看護師は患者さんの身近な存在と思うので、気軽に声をかけてもらえて、不安とか悩みを打ち明けてもらえるような看護師になりたいです。

清水勇 僕は将来、青年海外協力隊に参加したいです。検査の分野でも、求められるものはあると思うので、何が出来るか探して

いきたいと思います。日本で経験できないことを経験できれば、自分の物の見方が変わるような気がします。そのためにも、今は頑張って勉強するしかないです。

清水恵 私は優しい看護師になりたいです。自分自身が病院って怖いというイメージを持っていたので、その怖いイメージを無くしたいです。

——— ここがお勧めです（個人情報保護により氏名を特定できないようにしています）

☆ 大学の先生達は、本当に気軽に話せて相談もできます。

☆ 医学部は明るいです。

☆ 充実した部活が楽しめます。

☆ 看護学実習用のユニホームがかわいいです。

☆ 宇部は物価が安いから暮らしやすいです。

☆ 先輩が飲みに誘ってくれます（ただし20歳を過ぎてから）。

☆ 健康に問題が生じたときは、キャンパス内に医学部附属病院があり安心です。



工 学 部

エコエコでニコニコ(*^ε^*)

理工学研究科 環境共生工学専攻 1年 エコファイターズ 若林 大嗣
工学部 社会建設工学科 4年 エコファイターズ 井篁 俊人

出会いは無理やり

エコファイターズの出会いは無理やりでした。ある先生から、「夕方からエコの会議があるから人数を集めて出席して。」と頼まれ（脅され）泣く泣く同じ研究室の人を道連れにして会議に出席しました。会議は環境プロジェクトという集まりの会議で、今までやってきたこと、これからの活動内容が話し合われていました。心の中では環境のことに興味がありましたが、面倒なことには巻き込まれたくないと敬遠していたら、「ひとまず、これに名前とメールアドレスを書いて。これに書いたからといって、入ったことにはならないから。」と悪魔のささやきが聞こえてきました。そこから環境プロジェクトのメンバーと新しいメンバーによって、エコキャンパス・エコシティを目指したエコファイターズが生まれました。

今は水やり

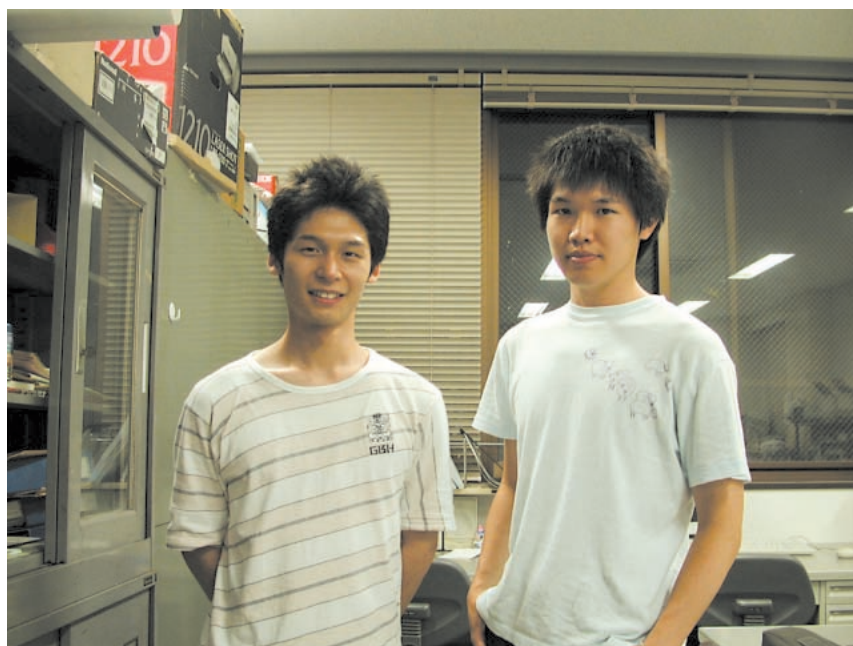
エコファイターズの活動は幅が広く、様々な活動を行っています。エコキャンパス・エコシティの考えに基づき、学内でリユースマーケットやデポジット活動を行ってきました。現在は学内の緑化

を進めるために、花壇を造り、花を植えて朝晩水やりを行っています。このような活動を続けるうちに、興味を持った学生が少しずつエコファイターとして参加してきました。また、これからの活動として、レジ袋を減らすためエコバックを企画中です。エコバックの芽が出るように、今は毎日水やり励んでいます。

エコは思いやり

エコは思いやりです。「地球のために、自然のために」といった台詞を言うつもりはさらさらありませんが私達人間は、自然の恩恵を受けながらしか生きていけま

せん。地球環境を守るのは、「自分のために、次の世代のために」行うものなのです。つまり、エコファイターズの活動は、自分自身を思いやることで成り立っていると言えるでしょう。はじめは半強制的にやらされていた活動も、今ではそこそこ楽しくなってきました。大学生活はやりがいを見つけ、楽しむことに尽きます。自分のために、あなたもやりがいを見つけてください。



私の学生生活

工学部 知能情報システム工学科 4年 古田 貴章

研究室

4年になり早いもので3ヶ月経ち、新しい環境にも少しずつ慣れてきました。今までと大きく変わった点は、研究室に所属したということです。研究室では毎日朝から研究活動に励んでいます。私の所属している研究室は「防災システム工学」というところで総合研究棟の5階にあります。とても見晴らしがよく、晴れた日には九州が見え、静かで落ち着いた環境にあるのでとても気に入っています。ここでは、防災や環境に私の学科で学んできた情報の知識を融合した研究を行っています。いろいろな

知識が得られて毎日が感動と興奮の連続です。

また研究室対抗のソフトボール大会などの行事もたくさんあり、勉強の合間に練習したりしていました。その結果、優勝という名誉を得ることができました。

キャンパスライフ

私は体育会準硬式野球部に所属しており、毎年春と秋にある中国地区のリーグ戦に出場しています。道具や遠征などでお金がかかりますが、皆バイトをして稼いでいます。大学では顧問の先生などおらず、主将を中心に自分達で練

習メニューを考えて練習していかなければなりません。上手くなるのも下手になるのも自分自身の意欲次第です。自主性を養うことができて社会に出てから役立つのではないかと思います。部員10人ながら私たちはこの春、二部から一部昇格という目標を達成しました。これからは一部優勝、そして全国大会出場という目標を持ち、練習に励んで行こうと思います。

大学に入るからには何らかの目標と強い意志を持ち、積極的に自分を表現し、アピールしていくことが大事だと思います。そして準硬式野球部に入ることをお勧めします！！



「エコカーフェスタ2005ソーラーフェスティバルin 神戸空港2005」で好成績

工学部 機械工学科 3年 ソーラーカー同好会 会長 平間 征一

私達ソーラーカー同好会は5月21日、22日に建設中の神戸空港で行われた、“エコカーフェスタ2005”に参加しました。この大会はレース、ラリー、ジムカーナの三種類で順位が競われる大会で、マシンのスピード、コーナリング性能、走行効率そしてチームワークというチームとしての総合的な能力が勝敗を左右します。

晴天の神戸空港滑走路で行われた大会1日目のレース予選、山口大学ソーラーカー同好会チームは見事、2位との差を1秒以上あけてのクラス1位を獲得しました。しかし、確かな手応えに胸躍る気持ちで挑んだ雨天でのレース決勝当日、私達のマシンVerrynaTENは電気系統のトラブルにより失速してしまい残念ながら念願の1位はお預けとなってしまいました。期待していたレースでのトラブルで意気消沈といったメンバーでしたが、何とか結果を残したいと気を取り直して挑んだラリーでは皆が総力を出し切り、1位との差は、ほんの1ポイントというクラス2位、総合3位の成績を獲得、種目別の

表彰台に上がることとなり、ソーラーカー同好会の歴史に新たな1ページを残すことが出来ました。

今回私達が並み居る私立大学や社会人チームを抑えてトップ争いを演じることが出来たのは、大学からの「おもしろプロジェクト」の助成金を受けての創意工夫によるマシン製作やソーラーカーにかける熱意、そして皆が目標を絞りそこに向かって協力し合ったからだと考えています。しかし、私達はこの結果に決して満足することなく、今回逃した表彰台の一番上を目指していきたいと思いま

す。

今年は8月7日に鈴鹿サーキットで開催される、“ドリームカップソーラーカーレース鈴鹿2005”にも出場します。このレースはFIA（世界自動車連盟）公認の国際レースとして世界でも有数のソーラーカーチームが集まる大会です。ここでもまた皆様により成績を報告できるよう、現在必死で大会のためのマシン製作に励んでいます。今後とも応援よろしく願いいたします。



農 学 部

「大学」というところ

農学部 生物機能科学科 4年 楠木 加奈子

みなさんは「大学」と聞いてどんなところを想像しますか？それぞれ色んなことを思い浮かべると思いますが、この「大学」というところは今まで行ってきた小学・中学・高校とは全く異なるものだということが言えると思います。それは私が今まで3年間大学生活を送ってきた中で感じてきたことです。では一体何がどう違うかというと、まず第一に今まで学校で受けてきた授業とは違い、より実用的な内容でより具体的なものになるため好奇心が湧き、楽しみながら学べることです。そしてなにより大学にはいろいろな分野のエキスパートが集まっているということです！

授業をしてくれる先生方もその道のエキスパートであり、優秀な研究者でもある方たちばかりです。見た目はそこら辺にいる普通のおじさんのように見えますが、専門のことを語らせると熱いパワーがみなぎってくるのか、スペシャリストへと変身してしまうから驚きです。でも逆にこのギャップが良いのかもしれません。だって皆さんよく考えてみてください！そんなにスゴイ人がそばにいても緊張して話しかけ難かったりしませんか？その点、うちの先生方はみんな白衣を脱ぐと気さくで人のいい先生ばかりです。ツンツと

したところなんて全くなく、真剣に悩みを聞いてくださったり、時には楽しくお酒を交わし、面白い(?) ギャグを言ったりと本当にフランクに何でも話せますし、何より、高い知識を持ったそんな先生方との会話はとても色々なことを教えられ、また好奇心や知識欲を刺激されるのです!!

そして更に身近な友達も大学となると全国色々な地域から集まってくる人ばかりで、みんなとの交流は様々な意味で視野が広がり、楽しさも倍増です!

このように大学では専門領域の勉強はもちろんですが、一人暮らしを含め、サークルや部活、また学外でのバイトやボランティア活動などの「大学生活」そのものから得るものもとても多く、またこれが人生において欠かせないものになると思います。例えばカレー作りならこれまでの人生は材料となるものを揃え、切って煮込むという過程であり、大学生活はそこに色々なスパイスを加え人生に味付けしていく過程といえます。スパイスを加えない限りそれはただの「野菜煮込み」であり「カレー」にはならないのです。その味付けはカレーのスパイス調合が家庭によって異なるのと同様に、一人一人違うものであり、さらに今後の人生での煮込み方によってそ

の味は少しずつ変化し完成していくと思います。しかしだからこそ面白いのではないのでしょうか。

そして就職活動とは大学生活の中でどんなスパイスをチョイスし、どのように味付けをしてきたのかという事を評価され、それを今後煮込んでいくことによってその人がどういう風に完成していくのかを予想し、その会社の「理想のカレー」となり得る人を選ぶことだと私自身面接などを受けてきて感じました。

私は来年から晴れて社会人になりますが、これほど色々なことを体験できるのは後にも先にもこの大学生活4年間しかないのではないかと思います。そこにはいつも責任というものが伴いますがこれほど自由で自分のための時間が取れるのは大学時代だけです。みなさんも大学4年間でしかできないたくさんの貴重なことを体験し、独自の味付けをしてみてください!! そして充実した学生生活を送ることができたなら、きっとみなさんだけのおいしいオリジナルカレーが出来上がっているはずです。

キャンパスライフ

農学研究科 生物資源科学専攻 野菜園芸学研究室 修士 2年 祝 昌寿

生活

私の生活は3分の1以上実験に占められています。私の研究室は植物を扱っているため、当然ながら植物の状態によって実験の進み具合が変わり、自分の思い通り実験が行えない事が多々あります。また、年に一回しかできない実験もあるため、その時期を逃さないように植物状態のチェックや準備をしっかりと行わなければなりません。学部生4年の頃はほとんど実験が解からない状態なので、担当教員から実験をやらされているようなものでした。しかし、院生になり実験を自分の思い通りにできるようになり、‘やりたい’と思えばいくらでもできるようになりました。そのため、休みがないという状態になり、疲れは溜まりま

すが、充実した日々を過ごしています。

外部との繋がり

院生ともなれば、大学の外での活動も増えてきます。今年の3月13日、理学部主催のサイエンスワールドに我々の研究成果を特別出展させていただきました。写真ではなく、実際に研究室でつくられた植物を展示したので、研究室で行っていることについて子供から大人まで幅広く興味をもっていただいたと思います。特に、我々が改良した植物が組換え作物とどう違うのかについてよく質問をされ、全く違うもので何ら人体に影響がないことを説明しました。また、学会や農業試験場など、外部の人達との交流の場も増え、自分

を知っていただく機会が増えました。

インターンシップ

私がインターンシップの制度を知ったのは、学部生3年の時で、その時は時間がなく、トライできませんでした。その後、院生1年の夏に2週間程度、ある会社の北海道の生産農場でインターンシップを行うことができました。もっとも忙しい時期にインターンシップを行ったため、休日なしで2週間を過ごすことになりました。インターンシップによって自分の長所や短所が客観的に評価され、それからの研究に活かすことができました。このインターンシップの最大の成果はその会社に就職の内定がもらえたことでした。



インターンシップ先での仕事風景
(青の作業服を着ているのが筆者)



サイエンスワールドのスタッフ
(右側が筆者)



サイエンスワールドにて新しい植物の披露

大学生活について

農学部 生物資源環境科学科 4年 板倉 真
 ” ” ” 光武 宏

学科の紹介

私たちは、農学部の生物資源環境科学科に在籍しています。生物資源環境科学科の良いところは、農学全般について幅広く学べることです。農業を取り巻く自然環境、植物の病虫害、さらには農業経済など多岐に渡って学ぶことができ、そして実際に農業を体験することもできます。また、実家が農家の人が多いと思われがちですが、実際にはそんなことはなく、大半はそうではないようです。い

ずれにしろ、農業に興味がある方には良い学科だと思います。

学生生活

色々あってサークルや部活に入りませんでした。その分、バイトをしたり、同じ学科の友人と色々なところに遊びに行ったり、旅行に行ったり、飲み会をしたりしてとても楽しい日々を過ごしています。ですが、現在4年生なので研究室でのゼミ、卒業論文の実験などで忙しいため、なかなか集

まって遊ぶ暇がありませんが、多少の無理を押して遊ぶこともたまにあります。これはこれでなかなか楽しいものです。

最後に

大学での学生生活は、どのようなものになるかはわかりませんが、これから先の人生で役に立ち、良い思い出になると思います。ですから、残りの学生生活も楽しく頑張っていきたいと考えています。



獣医学科での五年間

農学部 獣医学科 家畜外科学研究室 5年 伊藤 秋久

獣医師って・・・

一般に、獣医というと、所謂「動物のお医者さん」を連想する方が多いと思います。確かに、それは獣医師の仕事の中でも大きな存在です。しかし、獣医師の仕事は多岐にわたり、公務員としてBSEや鳥インフルエンザのような人畜共通感染症の対策を行ったり、大動物臨床（人工授精とか・・・）に携わったりと様々です。野生動物の保護、繁殖にも獣医師が関与していることが多いです（これは私が一番やりたいことだったりします）。

今までの五年間（長いような短いような・・・）

1年のときは教養（共通教育）

がほとんどですが、ポニ子当番というものがありました。ポニ子というのは、ポニー（♀）で年齢不詳な生き物です。ポニ子は結構性格が悪く、入ったばかりで大動物に免疫のない1年生には強気です（これも勉強？）。2年になると、専門科目が始まり、午前中は授業、午後は実習というスケジュールがずっと続きます。授業は内容が詰まっているものが多く、授業中居眠りしていたりするとテストのとき大変です（大いに反省、でも改善なし）。

獣医学科は偶数年に上がるときにボーダーがあり、単位を落としすぎていると次の学年に上がれません。1年から2年のときはすんなり上がったのですが、3年から4年のときは尻に火がついていました（とか言っているうちに来年は6

年、さあ大変）。

最近・・・

所属している外科研は、小動物臨床がほとんどです。さすがに大学病院なだけあって、MRIやCTなどの高価な機器もそろっており、これらを使っているところを直に見れるというのは大きなメリットだと思います。たまに大動物も診察に来ることがあり、小動物臨床とは異なった獣医師の仕事を見ることができます（個人的にはこちらのほうが好みです）。

それにしても単位が・・・6年に上がるのだろうか（泣）。サボってばかりだと本当に泣きをみます。要注意です。



学生生活・課外活動



●●●●●●●●●●大学祭 七夕祭実行委員会から●●●●●●●●●●

山大大学祭＝姫山祭!!!

大学祭実行委員会（人文学部 3年） 熊谷 芳子

11月と言えば…?

山口大学の11月を飾るイベントと言えば、やっぱりコレ！『姫山祭』でしょう。そんなの知らないって？確かに姫山祭はあまり多くの方には知られていないようですが、実は姫山祭とはれっきとした山口大学の大学祭なのです！今回姫山祭について紹介できるこの機会に、皆さんに少しでも興味を持って頂けたらと思います。

今年もやるべ！姫山祭

今年の第56回姫山祭は、11月5日（土）13時～20時30分に開催します。テーマは『笑顔色☺LOVE & PEACE』ということで、来場者の方々には姫山祭を思う存分楽しんでもらい、会場が皆さんそれぞれの笑顔色で染まることを期待しています。

現在、予定している企画は、来場者全員に賞品を狙うチャンスがあるビンゴ企画、数量限定で無料ご奉仕する炊き出し企画、参加サイド・応援サイド共に大好評のスポーツ企画などなど…盛りだくさんです。各企画内容は、より皆さんに楽しみ、参加していただけるよう、只今頭を120%回転させて考えています！そして何より会場内のボルテージが一気に最高潮に

達するのが、お笑いタレントによる爆笑ライブ!!無料で有名人が見れるなんてチャンス、滅多にありません。今年誰が来るかはまだ秘密ですが、昨年度はテレビ番組『ごっつええ感じ』でおなじみだったほんこんと板尾の2人組：130Rを筆頭に、全4組のタレントが山大到笑いの渦を巻き起こしました。

他にもまだ新しい企画などを思案中ですので、当日来てみてのお楽しみですよ

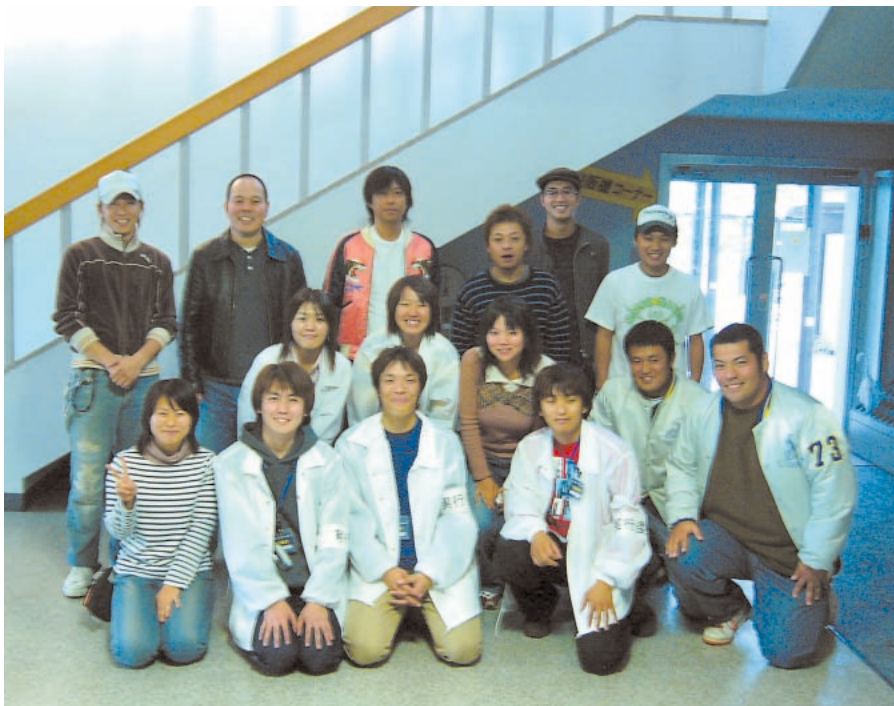
企画・運営する私たちのことで、当日は白いイベントパーカーに身を包んで西へ東へ走り回っています。メンバーには、とにかく祭りのことを考えて、人に喜んでもらうのが好きな人が勢ぞろいしています。それだけ姫山祭のことを考えているのですから、皆さんに損はさせません！

私たちは、皆さんのお越しを首を長くしてお待ちしています！お暇ならぜひ!!

実委より一言

『実委』：それは大学祭実行委員会を略した形、つまり姫山祭を

連絡先
大学祭実行委員会
TEL:080-5233-3287



僕にとっての七夕祭

第34回七夕祭実行委員会副委員長（農学部 3年）林 信太郎

みなさん、こんにちは。七夕祭実行委員会副委員長の林信太郎です。みなさんのおかげで、七夕祭は、今年で34回を迎えることができました。ありがとうございます。

僕が七夕祭と出会ったのは、今から2年前のことです。山口大学に入学し、そして、吉田寮に入寮しました。期待と不安でいっぱいでした。特に、友達作りに関しては、寮にせっかく入ったのにみんなと仲良くやっていけるか不安でした。そこで、人と触れ合う機会を求め、七夕祭実行委員会というものに入りました。最初は、軽い気持ちで始めた七夕祭も偉大なる諸先輩方や、周りのみんなの七夕祭に対する意気込みによって、七夕祭というものを深く意識し始めました。特に、僕の周りには、偉大な先輩が多かったと思います（笑）。

2年目にもなると、先輩の他に、後輩という存在ができます。後輩の見本になるように、先輩というものは行動しなければいけません。それがなかなか難しいもので、ここで、だいたい、自分のふがいなさ、弱さなど普段の生活で見えてこない違う自分が見えてきました。そして、他人の、自分とは違う素晴らしい点を見つけることができました。この時期に、自分というものをもう一度、見つめ直せたと思います。

そして、いよいよ3年目なのですが、それは今やっている真最中なので、特に思うことはありません。後ろを振り向かずに、今を一生懸命生きる、です。すべてが終わったあとに、おもいっきり反省します。でも、後悔はしません。後悔は決してしない。それは、七夕祭実行委員全員に共有する思いの一つだと思います。

七夕祭実行委員会というものは、青春時代特有の、腹の底から湧き出てくる熱い気持ちを持ったやつらが集まった集団です。その中で、人間的成長を促します。誰もが、それぞれの思いを持って、七夕祭というものに集まるので、時には、衝突することもあります。でも、誰もが、楽しんで七夕祭の仕事に取り組みます。七夕祭に対する熱い気持ちは、みんなに共通するからです。ここで学んだことや、思い出などは、将来決して忘れることはないです。そして、必ず、将来、役に立つと思います。何か一生懸命取り組むということは、絶対に人間の幅を広げるためには、欠かせないものです。それでは、短いですが、ここで僕からのお話は終わりたいと思います。これからも、七夕祭が成功するように、みなさんのご声援をよろしくお願いします。



後列右が筆者

吉田寮・ふしの寮の生活



吉田寮的生活

吉田寮自治会代表総務部長（教育学部 3年）平久保 達弥

はるばる山口へ

私は大学の入学式の前日にこの山口大学吉田寮に初めて足を踏み入れました。寮のいたるところには40年近い歴史の跡が…。最初の印象は、狭い、汚いしかありませんでした。しかし、神奈川から単身山口に出てきた私にとって心細い気持ちを抱いていたのもつかの間、寮という集団生活の場は友達を作るにはうってつけでした。すぐに、九州弁と山口弁の混ざる変な方言になっていきました。

住めば都

2人で4.5畳という限りなく狭いスペースをどう有効活用するかは、各自の工夫しだいです。お風呂なども、裸の付き合いをするにはもってこいの場所で、毎日銭湯に行っているような気分です。なによりも、すぐ友達の所に行けることが寮のメリットでしょう。こうして、男同士の友情は育まれていくのです。寮の半数は1年生ですが、残りの半分は上回生の人で、学部も年齢も出身もばらばらなので多くの人から多くのことを

学ぶことができます。これは、社会にでてからもきっと役立つ経験になるのではないかと思います。

自治寮

吉田寮は寮生が寮の決まりを寮生大会等で決めて生活しています。寮の運営も寮生の有志（総務部）が中心となって行っています。そのため門限や特別厳しい規

則はありません。しかし、そこには寮生一人一人が共同生活ということ意識して生活しているということが根幹にあります。近々、老朽化によって大規模な寮の改修が行われる可能性がでてきましたが、これからもこの40年近い伝統を絶やさず、吉田寮は学生とともに山口大学の発展を見守っていったらよいと思います。





寮での生活

ふしの寮総務部寮長 （理学部 2年） 角 朝香

集団生活の場

ふしの寮は原則として二人部屋です。見ず知らずの人と生活するというのに嫌悪感を抱く人も多いかと思います。しかし、実際に暮らしてみると意外におもしろいと思います。自由気ままな一人暮らしも良いかもしれませんが語り合える友達がすぐそばにいる生活もなかなかです。様々な話題の話を一晩中語り明かしたり、困ったときに助けを求めたり…と寮生活には魅力的な事がたくさんあります。また、他学部の人や先輩や後輩など普通の大学生活では気づくことが難しい人間関係を形成することもできます。寮は共同生活の場ですから不便を感じることも多いと思います。ですが、大学生活を終えると私達は社会に出て行くことになります。社会に出て行けばいろいろなルールを守って生活しなくてははいけません。その

準備をする練習として寮は最適な場であると思います。

自由な寮

ふしの寮は学生が運営している自治寮になります。寮という言葉から厳しい規則があると想像しがちですが、細かい規則や束縛が無く、ある程度の学生の自由が保障されています。この点がふしの寮の利点であると思います。共同生活にて求められる最低限のルールさえ守れば自分のライフスタイルに合わせて生活できます。学業に専念したり、サークル活動やバイトに打ち込んだり…と。ふしの寮はとても暮らしやすく楽しい寮だと思います。

実際に暮らしてみて

私が寮で生活することを選んで良かったと感じていることはやは

り近くにかけがえのない友達ができることです。家族のもとを離れての暮らしにはいろいろと分からないことがあったり、ホームシックになったりする人もいます。アパートでの一人暮らしではそんなときに友達に頼ったりすることが困難な場合がありますが、寮であれば相方やほんの少し歩くとそこには友達がいます。一人暮らしは自由気ままではありますが寂しいと感じることが多いと思います。しかし、寮で暮らしていると寂しいと感じることがありません。また、一人暮らしだと偏りがちな食生活に関しても栄養士さんがしっかりと管理してくださっているバランスの取れた寮食がありますので安心です。昼食は寮外生でも食べることができますので興味のある方は一度食べに来てみてください。



体育会・文化会のサークル活動

大学でのサークル活動の意味

2004年度体育会 合気道部 主将（人文学部 3年） 常井 智之

最近の学生？

最近の学生は覇気がないだとか、言葉遣いになっていないだとかいう意見をよく耳にします。しかしながらこれは僕の周りの部員や他の部で頑張っておられる方々にはあてはまらないことだと思います。各部活動、サークルに所属している人たちはそれぞれに目的意識をはっきりと持っていて、その目的に向かって日々頑張っています。

サークルの厳しさ＝素
晴らしさ

僕の所属する合気道部はまだマイナーな武道ということもあり、新入部員のほとんどが初心者で本格的に運動部に入るのも大学が初めてという人も結構います。僕もそんな「体育会系初心者」の一人でした。入部当初は練習はもちろん、時間の制約、礼儀に対する厳しさなどに挫折してしまいそうになることもありました。しかしその厳しさの中で人間として成長できることこそが部活の最も素晴らしい部分だと今では思えるようになりました。

より充実した大学生活
のために

3年となり将来のことを考える機会が増えてきて、今までの大学生活を振り返ってみることも多くなりましたが、もし部活に所属していなかったならば僕も冒頭で述べたようなことを指摘をされる学生の一人になっていたかもしれないと改めて感じます。山口大学に入学して何かをやってみたいけど厳しいのは嫌だと思っている方がいらっしゃるかもしれませんが、それでもなお僕は部活、サークルに所属することを強くお勧めします。絶対に後悔はしません！！



10年間思い続けて

体育会サッカー部主将（経済学部 3年） 山相 健史

中国学生リーグ1部昇格

山口大学体育会サッカー部は今年から中国学生リーグ2部で戦います。このリーグは僕たちが一番の目標としている大会です。これまでリーグが2部制になって以来、10年間山大は2部でやってきました。特にここ最近では2部は優勝するものの入替戦で敗れるという悔しいシーズンが続いていました。

しかし、去年、あまり期待されていないチームでありながら1部昇格を果たすことができました。

10年間の思い

1部昇格というのは10年前からの悲願でした。今までやってきたこと、積み重ねてきたこと、そして引き継がれてきた気持ちというものがあるのだと思います。実際、去年の入替戦ではたくさんのOBが応援に来てくれて、僕達だけでなく山口大学体育会サッカー部全員の力で勝つことができたと思っています。

全国を目指して

これからはさらに上を目指していききたいと思います。当面の目標は1部残留ですが、これまで積み上げてきたことを忘れずに、一人一人が高い意識をもって全国を狙っていききたいです。そして真の強豪チームとなれるように頑張っていきたいと思います。



硬式野球部

硬式野球部 副主将（教育学部 3年） 齋藤 辰憲

私達山口大学硬式野球部は現在中国地区大学野球連盟に所属しており、春と秋に行われる、リーグ戦に参加しています。このリーグは一部から四部まであり、私達は現在二部リーグにいます。一部リーグには神宮大会で優勝したこともある東亜大学や他の私立大が所属しており、国立大学の多い二部とは違う、ひとつ上のレベルの戦いを繰り広げています。

しかし、わが山口大学は二部リーグで昨年の秋季リーグ、今年の春季リーグと二期連続で優勝しており、今二部リーグの中で一部に最も近い存在であります。そして私達の目標は一部昇格から、一部でも勝てるチーム作りが変わってきています。チームの雰囲気も良く、チーム内でのレギュラー争いもあり、誰が出場しても遜色ないチームになりつつあります。平日

練習では授業との関係で人数がそろわない日もありますが、少ない中で内容の濃い練習にすべく一人一人が高い意識をもって日々取り組んでいます。そして休日練習は新1年生も加わりさらに活気のある練習をしています。体格や能力では一部のチームに比べればはっきり言って劣っています。しかし野球というスポーツはどれだけ優れた能力の選手をそろえても必ず勝てるスポーツではありません。一人一人がチームを思い、自分を信じ、100%自分のプレーをすることで、体格に優る一部のチームとでも対等の戦いが出来ます。そして私達はそれを可能に出来るチームであると信じています。

大学での部活動というのは皆でわいわい楽しくというイメージがあると思います。私達もリーグの

打ち上げや新歓、卒コン、他大学との交流戦など皆で楽しくやる場面も多々あります。しかしそれだけの部活動で有意義な大学生活が送れたといえるのでしょうか。私は今のチームが好きです。それはこのチームに目指すものがあり、そのために本気で話し合えるチームメートがいるからです。自分の気持ちを正直に話せる友などなかなか出会えるものではありません。それはそこに必ず厳しさと衝突があるからです。それを経験させてくれたこのチーム、そしてチームメートに本当に感謝しています。そして、この思いをこれから入ってくる部員にも現在の部員達にも持ってもらえるような、そんなチームにしていけたらと考えています。



サークル活動で充実した大学生活を

2005年度文化会会長 文化会吹奏楽部（理学部 3年） 江里口 裕也

サークルとは？

山口大学には数え切れないほどのサークルがあります。その中でも、大学公認の「部」、「愛好会・同好会」、そして「非公認団体」とに分かれています。近年では、自分の時間が欲しい、人付き合いが面倒といった理由でサークルに入らない人が増えています。これは、非常にもったいないことだと思います。サークルでは、同じ趣味、同じ感性を持った人が集まり活動するところです。私の入っている吹奏楽部では、昨年度、夏に行われる吹奏楽コンクールで中国大会銀賞、晩冬に行われるアンサンブルコンテストで全国大会銀賞という成績です。同じ趣味や感性を持っているからこそ達成できたことだと思います。このよう

なことから考えてみても、サークルはキャンパスライフの大きな要素です。

勉学とサークルの両立ってできるの？

特に「部」では練習がきつい、勉学と両立できるか不安、と警戒されがちです。しかし私は、自分が入っている吹奏楽部で、勉学とサークルの両立ができています。

私は、文化系の部が集まった文化会という組織の会長をしているため、様々な文化系サークルを見していますが、心配せずとも勉学との両立は可能です。練習も週3、4回程度の活動で、勉学に支障はありません。試験週間に練習するサークルもありますが、ほとんど

のサークルは活動しませんので安心してサークル活動ができるようになっています。

サークル活動

大学のサークル活動は中学、高校までの部活動とは全く違います。サークルは学生による運営のため、学生同士が協力して活動を行うことで、今までに経験がないくらい、サークル員同士が親しくなります。共に活動し、遊び、真剣に悩み、時には嫌いになり、誰かと助け合ったり、コンパなどでハメを外したりと、それが大学生活での大きな思い出となるでしょう。大学にはいるからにはぜひ何かのサークルに入り、充実したサークルライフ、大学生活を過ごされることを期待します。



自分と演劇

文化会企画局長 演劇部（人文学部 3年） 西澤 慎二

私たち演劇部は年に3回の公演（春公演、寸劇、冬公演）を軸に活動しています。公演を行うことと、そのための練習や準備を行うことこそ活動そのものといえます。

演劇部では各公演で演出というものを決めます。演出というのはその芝居の舵取りをする人であり、その芝居の全体の流れを創る役割の人です。楽団でいうところの指揮者にあたるものです。演出が変われば脚本の捉え方も大きく変わるので、同じ芝居でも雰囲気が変わってきます。その演出によ

って、役者とスタッフが決められて公演に向けての準備が始まります。演出によっては、練習期間中に合宿を行い、強化練習を行うこともあります。いつもと違った場所で練習することは大きな刺激になります。

また、山口市内には学生、社会人ともに、様々な劇団があり、それぞれの団体がつながりを持っています。そのため、演劇部の公演がない、夏季休業中や春季休業中などは、多くの部員が他団体の公演に参加します。

最後になりますが、芝居は娯楽

です。しかし、芝居を見るという習慣は、地方にはまだ根付いてないのが現状です。テレビや映画、インターネットなどが普及した今日では芝居というのは面白くないと思われがちです。しかし、芝居の一番の魅力は生であることです。取り直しのきかない、一度始まったら止めることの出来ない面白さは映画やテレビなどとは違った面白さがあります。その面白さを山口に伝えることが出来るように日々練習に励んでいきたいと思っています。



サークル活動の魅力

2005年度文化会マンドリンクラブ部長 （農学部 3年） 白石 哲視

始めに

大学に入学すると様々なサークルから勧誘を受けます。今までの高校生活等の部活動に比べると選択の幅や人数も増えるのでサークルに入ることによって、いっそう人間的に成長できます。

そして、サークルは大学での学業だけでは得られない、物事に対するチャレンジ精神や自分を客観的に見てくれる仲間を作ることのできる場所だと思います。

普段の練習

僕はマンドリンクラブという音楽系のサークルに属していますが、そのサークルについて説明したいと思います。

僕たちのサークルは年に3回行われる演奏会のために週3日練習を行っています。練習中は、みんなが演奏会に向けて一丸となり曲作りに取り組んでいます。しかし、マンドリンは世間一般の人にはあまり知られていない楽器で、大学に入ってから始めた人がほとんどで、みんながマンドリン音楽をどのように表現するかなど、ちょっと熱い雰囲気です。

練習以外の活動

マンドリンクラブはただ練習するばかりではなく、ほかの活動も行っています。サークルによって違いはあるにしろ、サークル員の絆を深めたりするコンパや合宿等の行事を行うことによって、社会

に加わる人間としての基盤を構築することができると思います。堅苦しい表現ですが、実際は楽しいことばかりです。

終わりに

サークル活動は決して無益なことではないのです。もちろん、学業に専念するのも結構でしょう。しかし、練習やその他の行事を通じて得られる協調性や人間関係、その他諸々はきっと生涯の宝となり、社会にでても必要なことばかりだと思います。

大学生活は自分がいかに学び、どうあるべきか、自分で考えることができれば、きっと実のあるものになると僕は考えています。



サークル紹介

本学には、学生の自主的な課外活動を行う団体として「体育会」、「文化会」、「大学祭実行委員会」の3団体があり、大学の公認団体として取り扱っています。それを構成するサークルとして体育会公認サークルが37サークル、文化会公認サークルが17サークルあり、学生自らの手で運営し、それぞれの目標に向かって、日々活発に活動しています。

また、小串地区（医学部）、常盤地区（工学部）においても、学生自治団体が組織されており、全学の体育会や文化会と一緒に活動しているサークルや、独自に活動しているサークルなどがあり、活発に活動しています。

【体育会】

体育会公認サークル

- | | | | |
|---------------|----------|----------------|--------------|
| ・合気道部 | ・硬式庭球部 | ・水泳部 | ・バレーボール部(女子) |
| ・アイスホッケー部 | ・硬式野球部 | ・スキー部 | ・バレーボール部(男子) |
| ・アーチェリー部 | ・ゴルフ部 | ・ソフトテニス部 | ・ボート部 |
| ・アメリカンフットボール部 | ・サイクリング部 | ・卓球部 | ・ヨット部 |
| ・鷹援團 | ・サッカー部 | ・軟式野球部 | ・ラグビー部 |
| ・オリエンテーリング部 | ・山岳部 | ・馬術部 | ・陸上競技部 |
| ・空手道部 | ・自動車部 | ・ハンドボール部 | ・ワンダーフォーゲル部 |
| ・器械体操部 | ・柔道部 | ・バスケットボール部(女子) | |
| ・弓道部 | ・準硬式野球部 | ・バスケットボール部(男子) | |
| ・剣道部 | ・少林寺拳法部 | ・バドミントン部 | |

【文化会】

文化会公認サークル

- | | | | | |
|---------|--------|--------|-----------|-------------|
| ・E.S.S. | ・吟詠部 | ・写真部 | ・美術部 | ・ユースホステルクラブ |
| ・映画倶楽部 | ・考古学部 | ・将棋部 | ・文芸部 | |
| ・演劇部 | ・混声合唱団 | ・吹奏楽部 | ・邦楽部 | |
| ・管弦楽団 | ・茶道部 | ・洞穴研究会 | ・マンドリンクラブ | |

【医学部学生自治会】

医学部学友会所属サークル

体育会系

- | | | | |
|---------|----------|------------|----------|
| ・空手部 | ・バレーボール部 | ・スキー部 | ・少林寺拳法部 |
| ・硬式テニス部 | ・陸上部 | ・バスケットボール部 | ・ソフトテニス部 |
| ・柔道部 | ・弓道部 | ・ハンドボール部 | ・バドミントン部 |
| ・水泳部 | ・サッカー部 | ・剣道部 | ・ラグビー部 |
| ・卓球部 | ・準硬式野球部 | ・山岳部 | |

文化会系

- | | | | |
|----------|-------|----------|----------|
| ・E.S.S. | ・管弦楽団 | ・献血部 | ・心の臨床研究会 |
| ・カッタ君ネット | ・軽音楽部 | ・国際医療研究会 | ・美術部 |

【工学部学友会】 工学部学友会所属サークル

・アーチェリー部	・工学部女子バレーボール同好会	・邦楽部	・ソフトボール部
・インパルス	・ボードゲーム研究会	・夜間主サッカー部	・バドミントン部
・器械体操部	・温泉たまご(バスケットボール)	・医・工学部管弦楽団	・ボート部
・CANDY POP(バドミントン)	・フリーダム同好会(バスケットボール)	・陸上競技部	・夜間主バスケットボール部
・サッカー部	・電電etc	・硬式庭球部	・ワンダーフォーゲル部
・柔道部	・合気道部	・アメリカンフットボール部	・将棋同好会
・スキー部	・オリエンテーリング部	・空手道部	・山口大学吹奏楽部附属吹奏楽部同好会
・体育会ヨット部	・ぎゃらん(フットサル)	・空舞のなつやすみ	・石原軍団(サッカー)
・バレーボール部(男子)	・剣道部	・アマチュア無線部	・学友会サイクリング部
・B4(フットサル)	・自動車部	・学友会弓道部	・情報サークルSKY
・夜間主バレーボール部	・少林寺拳法部	・軽音楽部	・P.M.P(フットサル)
・マンドリンクラブ	・ソフトテニス部	・工学部バスケットボール部	・ソーラーカー同好会
・ラグビー部	・卓球部	・写真部	
・準硬式野球部	・ハンドボール部	・水泳部	

【大学祭実行委員会】

吉田地区の大学祭(姫山祭)及び新入生歓迎フェスティバルは、山口大学大学祭実行委員会を中心に企画・運営されており、姫山祭は、近年、特に盛大になってきており、近郊から多くの市民の方々も足を運ばれています。

また、医学部(医学祭)、工学部(常盤祭)においても、それぞれ実行委員会が組織され、毎年盛大に開催されています。

【その他】

同好会・愛好会等(吉田地区 平成16年度)

体育系

・ボウリングサークル	・フルコンタクト空手	・VOLVIC	・ALICIA
・チェリーズ	・ラカルト	・ハンドボールサークル	・テニスサークルラフ
・合気道同好会	・ナインスターズ	・よさこいやっさん	・ラッキーストライク
・硬式テニス愛好会	・ラクロス	・独行庵	
・シーサー	・イケメン	・ルビーズ	
・STYLE	・華金	・かくれんぼ同好会	

文化系

・ボードゲーム研究会	・音楽同好会やまたのおろち	・野鳥研究会	・トム・ソーヤーズ
・SAS(Sing A Song)	・軍事研究同好会	・手話サークルH.O.L	・クイズサークルSQUARE
・漫画同好会	・神の子たち上映実行委員会	・喜劇病棟	・Resistance
・デザインラボくれよん55	・学生赤十字奉仕団	・軽音楽同好会	・芝居屋くあつまれ>
・落語研究会	・BLUE SKY	・ふえよん	・MUSICPARTYのいちご
・囲碁愛好会	・聖書研究会	・TV文化研究会	・メディエーター
・アニマルセラピー研究会	・C.F.T	・情報サークルSKY	・YU.NET

学生生活の支援について



学生支援課の業務

学生支援課長 寺本 和 仁

学生支援課の役割・機能

学務部学生支援課は、学生支援センターと連携を取りながら、修学、正課外活動、就職活動など、学生生活全般に係る支援業務を推進し、また、サポートする役割・機能を担っています。

支援の柱

業務の内容は、大きく学生相談、学生生活支援、就職支援の三つに分けられますが、これらの主なものとして次のような業務があります。

- ①学生相談においては、「学生生活なんでも相談窓口」を設け、学生、保護者からの修学、進路、経済的、心理的、その他日常生活における悩みなどの様々な相談に応じ、専門的な助言を行う他、相談の内容によっては学生相談所、保健管理センターなどの医師、カウンセラー等を紹介するなど、その解決に努めています。
- ②学生生活支援においては、奨学金の貸与、入学料・授業料免除及びアルバイト紹介などの経済支援や学生が自主的・自立的に行う課外活動等（新入生歓迎フェスティ

バル、七夕祭（寮祭）、姫山祭（大学祭）、学長杯争奪学内駅伝大会、文化系・体育会系のサークル活動等）に対する支援を行っています。また、より充実した学生生活を送るために、学生が自主性・創造性を思う存分に発揮できる機会を提供する事業としての「おもしろプロジェクト」の実施や、サークル合宿研修、交通安全講習会、防犯講習会、消費者啓発講座等を通じて、学生生活上での安全管理の意識を培うことも大きな業務の一つです。この他、課外活動施設、福利厚生施設（学寮、食堂等）の充実整備なども重要な業務です。

- ③就職支援においては、課内に就職情報相談室を置き、学生支援センター就職支援部の専任教員（2名）との密接な連携のもとにキャリア講義の開講、就職講演会・説明会の実施、学内での業界・企業研究会の開催、学生が主体的に取り組む就職行事への支援、就職相談などに取り組んでいます。さらに、各学部、大学生協及び山口県若者就職支援センターとも連携を図りながら学生の就職活動を支援しています。

今後の課題

このように幅広い分野にわたっていますが、進学率の上昇等による多様な学生の入学に伴い、従来の業務方法では対応できない状況も多々生じてきています。平成12年6月の「大学における学生生活の充実方策について（文部省調査研究会議）」においても、“「教員中心の大学」から「学生中心の大学」への視点の転換”が求められており、正課外教育の積極的な捉え直しなど、そのための様々な施策が提言されています。そういった意味においても、学生支援課の役割は今後益々重要なものとなります。平成18年度から学務課と学生支援課が同一フロアーに配置されることとなっており、これまでに増して学生サービスの向上が図れることとなりますが、職員個々の意識改革に併せ、必要な人的資源の投入を優先的に行うことにより、学生の立場に立った、一層充実した支援体制の構築が必要と考えています。

TOPICS

「日本農芸化学会中四国支部第12回講演会」並びに 「日本農芸化学会中四国支部若手研究者交流シンポジウム」の開催

■ 山田 守 農学部 生物機能科学科 教授

去る5月20日に日本農芸化学会中四国支部若手研究者交流シンポジウムを、続いて5月21日に日本農芸化学会中四国支部第12回講演会を山口大学大学会館において開催しました。若手研究者交流シンポジウムでは『「香り」を介した植物、動物、昆虫の通信ネットワーク～「香り」の未知機能の発掘と開発～』というテーマで、6名のシンポジストによる講演があり、また、第12回講演会では特別講演1題、支部奨励賞受賞講演3題、一般講演15題の発表がありました。学生を含め多数の参加者を得て大変盛況でした。詳細な解説に換えて、特別講演の演者の山口大学農学部加藤昭夫先生に講演内容について、交流シンポジウム世話人の山口大学農学部松井健二先生にシンポジウムの趣旨および内容について後述のように簡単に紹介していただきます。

この機会に農芸化学とその学会についてご紹介させていただきます。今から約100年前に、農芸化学 (agricultural chemistry) は農業と密接に関係する事柄を化学的に研究する学問として誕生しました。その後、研究の対象を農業生物や農産物に限ることなく、あらゆる生物とその生産物にまで拡張、一つの幅広い自然科学の体系化を志向した結果、世界に類を見ないユニークな発展の途をたどりましました。そして現在では、バイオサイエンス (生命科学) ・バイオテクノロジー (生命工学) を看板に食糧・環境科学をも含む総合科学として、その存在を国際的に示しうるまでに成長してきました。日本農芸化学会は農芸化学の進歩を図り、それを通じて科学、技術、文化の発展に寄与することを目的として、1924年に設立された学術団体です (<http://www.jsbba.or.jp/index.html>)。現在、会員数

は1万2千名 (海外会員約300名) 以上と日本の学会の中でもっとも大きな学会の一つとなっており、研究の柱として生命・食糧・環境の三つを掲げています。これまで農芸化学は基礎研究から応用研究まで幅広く、産業的にも多くの貢献をしてきました。ビタミンB1の発見は脚気の治療に画期的な効果をもたらし、微生物によるアミノ酸発酵はアミノ酸の工業生産を可能にし、天然物の生理活性成分の構造決定、旨味や香りの化学構造決定は化学産業、食品産業に大きな貢献をしてきました。最近では遺伝子工学を駆使して、バイオテクノロジーの中心としてバイオ産業に貢献しています。

上述のように、日本農芸化学会の発足は比較的古く昨年80周年を迎えました。現在、北海道・東北・関東・中部・関西・中四国・西日本の7支部からなりますが、その中で中四国支部は2001年4月に発足した新しい支部です。会員数や学会発表あるいは学会誌論文数などの学会活動は全体の約10%におよび、多くの学生会員も活躍しています。今回の講演会やシンポジウムでも中四国支部に特徴的な先端的研究が数多く発表されました。山口大学では本会員が理学系 (理・工・農・医) の全ての学部にはいますが、歴史的背景もあり農学部には多くの会員がいます。その中心は生物機能科学科ですが、平成3年まで農芸化学科として、その後学科名の変更や改組があり現在に至っています。

T O P I C S

特別講演「酵母をモデル生物としたタンパク質の品質管理機構」

加藤昭夫 （農学部生物機能科学科 教授）

生物は正しく折り畳まれたタンパク質だけを細胞外に分泌し、折り畳みが不十分あるいは不完全なタンパク質はプロテアソーム分解系により除去されます。このシステムをタンパク質の品質管理機構といいます。このタンパク質の品質管理に分子シャペロンが重要な役割を示すことが明らかになってきました。

近年、タンパク質の構造異常によっておこるアルツハイマー病、プリオン、クロイツフェルトヤコブ病、パーキンソン病などの神経変性疾患をはじめとして、現在20数種のフォールディング異常病（アミロイドシス）が報告されていますが、有効な治療法、予防法が確立されていません。私たちはタンパク質の品質管理の精巧さの乱れがフォールディング異常のタンパク質の分泌を促進するという仮説をたて、これを証明してきました。

本講演では、その概略を述べ、フォールディング病の予防法ならびに酵母で有用タンパク質の組換え生産の効率化について紹介しました。

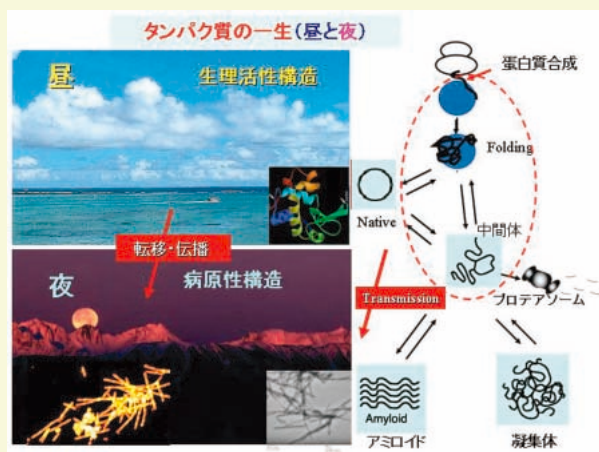


図1 「タンパク質の一生」を示すスキームです。細胞内で合成されたタンパク質は正しく折りたたまれた構造のものだけが細胞外に分泌され、異常な構造のものは分解されるようにシステムが備わっています。ストレスや老化に伴いこのシステムがうまく動かなくなると、アミロイド型の構造異常のタンパク質が蓄積します。

若手研究者交流シンポジウム『「香り」を介した植物、動物、昆虫の通信ネットワーク～「香り」の未知機能の発掘と開発～』

松井健二 （農学部生物機能科学科 教授）

山口大学ではこれまでの各教員の実績に基づき、今後山口大学の中心となる研究を積極的に推進するために研究推進体という研究集団を形成しています。そのひとつ、「生物活性揮発成分の科学（代表農学部松井健二）」は、香りが秘める生物に対する様々な機能を解明することを目的として形成された研究グループです。このシンポジウムは本研究推進体が企画し、学内外から香りの機能についての著明な先生方をお願いして開催しました。香り物質は揮発しやすい化学物質で、これが鼻の奥にある受容体と結合するとそのシグナルが神経回路を通じて脳へと伝わり、匂いを意識します。脳には身体を動かしたり、心をコントロールする場所が特定されていますが、匂いを感じる場所が心をコントロールする場所に近く、匂いによって安らぎやフレッシュ感などの情動が変化すると考えられています。これはアロマセラピーとして一般によく知られていますが、こうした効果を科学的に証明することは困難でした。本学理学部の青島先生、赤壁先生、国立環境研究所の梅津先生、広島大学の滝口先生はマウスや動物細胞を用いた実験系で香りがこうした精神生理学的効果を示すことをはっきりと示して下さいました。一方、香りの源の多くは植物ですが、植物はなぜ香りを出すように進化してきたのでしょうか。京都大学高林先生は植物が虫の食害を受けたあとに独特の香り成分を放出し、その虫の天敵を誘引して退治してもらうことを科学的に証明し、その説を展開して下さいました。また、植物どうしの交信に香り成分が関与していることも示唆されてきつつあり、松井がその可能性について紹介しました。

こうしたシンポジウムを通して香りの生物活性を次々と明らかにし、その作用を科学的に証明することで香りを用いた生態系の改善、コントロールが可能になるかも知れません。

T O P I C S

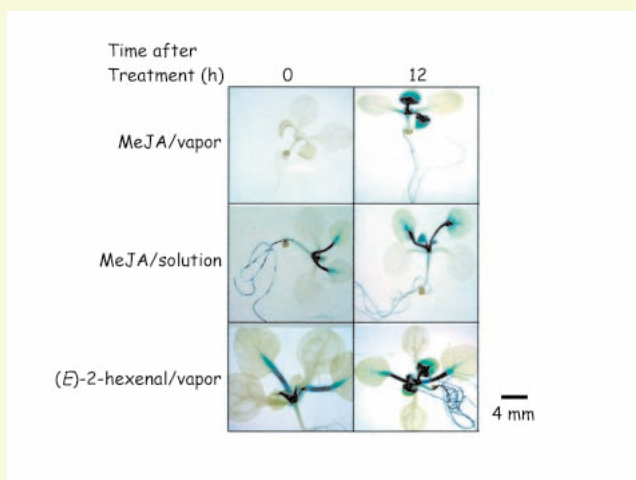


図2 pVSP::GUSレポーター系を用いた揮発性化合物応答様式の解析。



図4 寄生蜂は虫の幼虫の体内に卵を産みつけて寄生する。この時、寄生蜂は植物の匂いを嗅ぎ付けて寄生する相手の虫を見つけている。

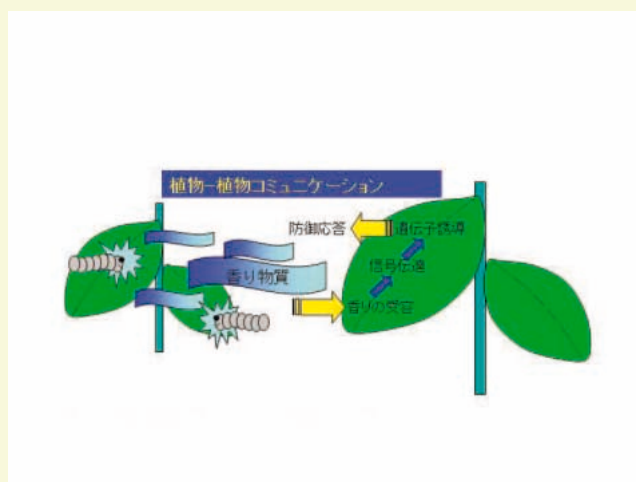


図3 香り化合物は植物-植物シグナル物質として機能しているのかも知れない。



図5 高架式十字迷路

- ①高架式十字迷路でのマウスの行動から、薬物の抗不安作用を測定できる。
- ②壁のない迷路（オープンフィールド）へのマウスの進入回数、滞在時間の変化から、芳香物質の抗不安作用を測定できる。

学内連絡先

TEL:083-933-5869

E-mail: m-yamada@yamaguchi-u.ac.jp

TOPICS

理学部化学・地球科学科「地球科学コース」がJABEE認定を受ける —地域社会への貢献と多種多様な地質状況に対応できる柔軟な地質技術者の育成—

■ 田中 和広 理学部 化学・地球科学科 地球科学講座 教授

理学部化学・地球科学科の「地球科学コース」では、ここ数年、サイエンスの知識や論理性を基礎とする世界に通用する地質技術者の教育を目指して、学習教育目標を設定し体系的なカリキュラムの確立、学生支援、設備の充実などを行ってきました。

このたび、5月12日に、「地球科学コース」は、JABEE認定基準に適合する技術者教育プログラムであると日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定されました。認定を受け、平成16年度の卒業生から、国家資格である技術士補を無条件で申請、取得できることとなり、実務経験をつむことにより最終目標である、技術士を取得するための二次試験を受験することができます。JABEEは6月15日に世界的に技術者教育を相互に認証しあう組織であるワシントンアコードに正式に加盟しました。これにより、「地球科学コース」の教育プログラムは世界的にも認証されたこととなり、より権威の高いものとなりました。

審査においては特に、野外実習を含む実践的、体系的なカリキュラム、標本室などの施設の充実、外部アドバイザー委員会などを通じた教育システムの点検や社会のニーズのプログラムへの反映などが高く評価されました。この分野での認定は全国の国立大学法人の理学部としては初めてのことであり、上記のような理学部の教育方針が評価されたものと考えられます。

山口県を中心とする地域には、秋吉石灰岩をはじめとする古生代から現在に至るわが国の代表的な多種、多様な岩石や地層が分布し、地質構造にも様々の特徴がみられます。また石炭を産出した美祢層群や宇部層群、東大寺の大仏建立に際し銅を採掘した長登鉱山、萩焼きの粘土など、資源・

素材の面でも恵まれております。また、土石流や地滑りの原因となるマサを形成する花崗岩類、地滑りの発生に深くかかわる油谷半島の玄武岩など防災面においても重要な課題を抱えております。最近、西日本で地震活動が活発化し、地震の活動期に入ったことが指摘されており、地震防災に関する研究が求められております。

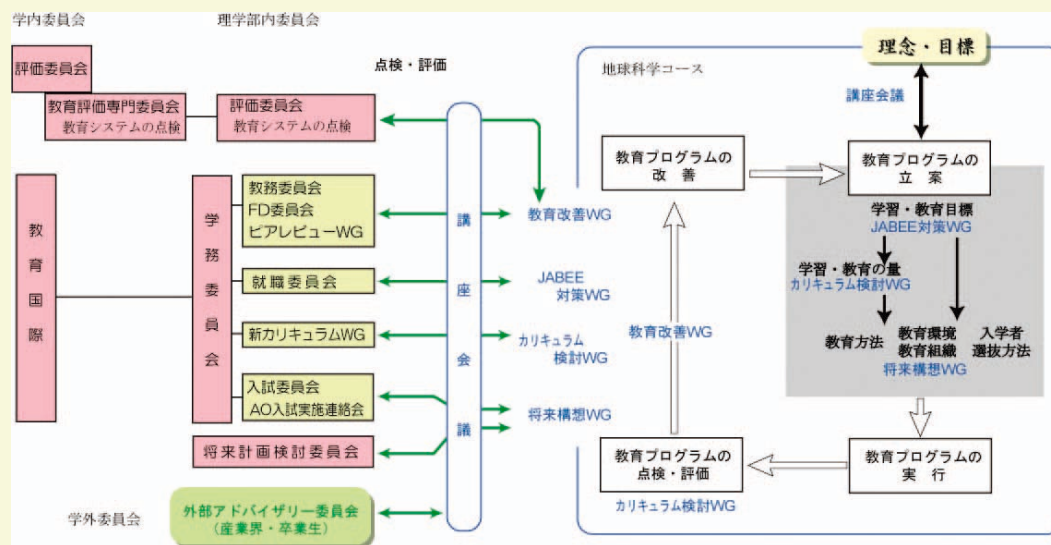
「地球科学コース」では、このような地域の地質環境の特殊性を生きた教材として積極的に活用して地域に密着した教育を行うことにより、地域地質に強い地質技術者を育成してきており、卒業生は地質技術者やその専門家をはじめとして様々な分野で活躍しています。さらに、上記で述べたように、多種多様な地質環境に囲まれた山口大学では、多様な地質環境へ臨機応変に対応できる地質技術者や専門家の育成を通じて、自分で問題を発掘しその解決策を考えるとといった自立した技術者の教育を行っております。

今回の認定をプログラムの更なる発展の契機ととらえ、

- ・ 地域社会の抱えている様々な課題に貢献できるとともに、地域地質や地域災害に対する課題設定と解決能力に優れた学生
- ・ 地域地質の教育・研究を通じて現象を普遍化することによって、山口から世界への発信を目標として、地域社会や現代社会との関係の中で自分の研究を位置づけることができる柔軟性のある学生

の教育を推進していきたいと考えております。

T O P I C S



教育点検システムの概要



野外実習の様子



地質標本室の概要



JABEE認定書

学内連絡先

TEL:083-933-5740

E-mail: ka-tanak@yamaguchi-u.ac.jp

TOPICS

光半導体素子研究開発棟

■ 只友 一行 工学部 電子デバイス工学講座 教授

はじめに

山口大学では、「LED等光技術を基盤とする次世代医療機器の開発」をテーマとする知的クラスター創成事業プロジェクト（文部科学省、期間：2004年4月～2009年3月、研究統括：田口工学部教授）が実施されています。このプロジェクトでは、高効率のLED（発光ダイオード）を使った医用応用が主テーマになっており、自前のLED作製技術の研究開発、およびLEDの応用技術（特に医用応用）の研究開発を目標としています。最終的には新しい事業を創出し、地域産業さらには日本産業の発展、競争力強化に寄与することが目標です。

研究開発棟の概要

光半導体素子研究開発棟（写真1、以後「素子棟」と略記）は、「自前のLED作製技術を保有すること」が光半導体素子の研究開発拠点たるには必須であり、さらに「物作りの基盤技術を大学が保有するべき」

といった大学・工学部の強い意思とバックアップを受けて今年3月に竣工致しました。4月8日には竣工記念式典が挙行され、加藤学長らによるテープカットが行なわれました。今後の山口大学における「光半導体素子」の研究開発拠点となります。

素子棟の総床面積は250m²と決して広くはありませんが、クラス1000（90m²：ウエハープロセス室）とクラス10000（64m²：結晶成長室）の二つのクリーンルームを有しています。素子棟の中には、MOVPE（**metal organic vapor phase epitaxy**：有機金属気相エピタキシャル成長装置）、電子ビーム蒸着装置、ICP-RIE（**ion coupled plasma- reactive ion etching**）、RTA装置（**rapid thermal anneal**）、マスクアライメント装置などの最先端の半導体加工装置が導入されています（一部は本年度以降に購入を予定）。また、附属設備として液体窒素から窒素ガスを製造する設備（写真1の右側）、およびアンモニアガスを低温触媒燃焼させ無害化する除害設備を有しています。



写真1 光半導体素子研究開発棟

T O P I C S

研究開発の概要

ここでの研究開発内容は、以下に代表される要素技術の研究開発、および高効率LEDなどの半導体素子の研究開発です。

- 1) MOVPE装置を使って、半導体素子の土台となる結晶基板上に種々の機能を有する半導体結晶薄膜を積層する技術：Ⅲ族元素のAl、Ga、In、V族元素のNを構成元素とする化合物半導体を当面の研究対象とします。この半導体結晶薄膜の品質でLEDの発光効率が決まります。
- 2) 電子ビーム蒸着装置、マスクアライメント装置、RTAなどを駆使して、電極を形成する技術：電極は外部システムとの電氣的接続を行なうためのインターフェイスであり、電気抵抗が低いこと、安定であることなどが要求されます。マスクアライメント装置は、微細な素子構造を書き込んだフォトリソマスクのパターンを基板上に転写する装置です。また、RTAは、窒素ガス雰囲気中で急速加熱・急速冷却を行なう装置です。
- 3) ICP-RIE装置、マスクアライメント装置などを駆使するエッチング技術：微細な素子形状を形成する基本技術です。ICP-RIEは、高密度のプラズマを利用して高速エッチング加工を行う装置です。

研究開発SPIRIT

素子棟の正面入口を入ると、「気合、根性、好奇心」の三木学部長の気合の入った書が眼に入ります（写真2）。研究開発を成就するにはこの魂（スピリッツ）が重要であり、素子棟で研究活動を行う人にはこの精神を学んで欲しいとの気持ちで学部長に書いて頂きました。「気合」とは言い換えると集中力です。雑念を払って課題に集中すると展望は開けてくるものです。また、気（心）を合（あ）わすことも意味しております。本素子棟は色々な立場の人が契約に基づいて利用しています。設備をバラバラに勝手に運用したのでは安全で効率的な研究は難しくなります。「根性」とは言い換えると粘り強く諦めないことです。実験には失敗は付き物です。そんな時、失敗を成功に導くのはこの諦めない粘り強さです。最後の「好奇心」は何事にも知的な興味を持ち、面白がる心を意味しています。サイエンスを志す人にとって、この好奇心が行動の原動力になります。この素子棟では、この3K（Kiai, Konjyo, Koukishin）を心に刻んで卒業して欲しいと願っております。



写真2 三木学部長の書

学内連絡先

TEL:0836-85-9455

E-mail: tadatomo@yamaguchi-u.ac.jp

TOPICS

異文化交流講演会

欧州連合の多言語政策と「異言語・他言語」学習のすすめ

■ 高橋 瑠衣 人文学部 言語文化学科 4年



2005年5月27日、山口大学・大学会館二階会議室にて、ヒンターエーダー＝エムデ・フランツ氏による講演会「欧州連合の多言語政策と『異言語・他言語』学習のすすめ」が開かれました。エムデ氏は、主専攻としてドイツ近代文学を、副専攻に哲学と日本学を学ばれました。1988年に山口大学に赴任され、ドイツ語教育に携わってこられました。また、比較文学研究や異文化交流にも力を注がれ、この山口大学と彼の出身大学であるエアランゲン大学との交流協定を締結する際にも尽力されました。今回、この講演ではヨーロッパの歴史やEU（欧州連合）の歩みに触れつつ、ヨーロッパの言語事情やその政策、外国語学習の意義について話して頂きました。

ヨーロッパの言語事情と多言語政策について

現在、ヨーロッパには60から95の言語、12の手話があるといわれています。また、EUでは加盟国25カ国の公用語が等しく扱われており、公式文書は21言語に翻訳されています。翻訳者は約2400人、各言語に約110人いるといわれています。エムデ氏はいかにヨーロッパが多言語国家であるかという

ことを、聖書のエピソードなどを交えつつ話されました。

これほどの多言語国家の中で行われている政策に関してまず挙げられたのは、2001年に提言された「ヨーロッパ言語年」についてでした。この際「多言語主義」が掲げられ、市民には、行政などに対して母語を使用する権利があること、義務教育では、母語に加えて最低2言語を学ぶこと、などが提唱されました。この具体的な目的は、言語的・文化的な多様性を意識させることや、数言語ができることに伴うメリットを理解させること、生涯学習を促進すること、またエアバスの共同開発などによって、この多言語政策を単なる教養主義だけに留めず、グローバル化する世界の中で生き残るために経済力を発展させることや、あらゆる面で国境のないヨーロッパ作りを目指すことでした。次に、欧州委員会教育・文化総局の推進プログラムについて語られました。この政策の目的と内容は、ヨーロッパ人としての国境を越えた一般教育や、共同のプロジェクト、学生・教員の総合交流（留学など）、複数言語の並行学習などです。

しかし、ヨーロッパの実情をみると、さまざまな問題が浮かび上がってきます。経済や生活水準の格差（失業、物価、賃金、市場のアンバランス）、移民問題、環境問題（洪水、酸性雨）、農業問題などをどのように乗り越えていくか、ということが今後の課題となっていくであろう、とエムデ氏は述べられました。

異言語・他言語学習について

ヨーロッパでは、幼稚園・小学校から異言語学習が行われています。早い段階から学習すること

TOPICS

によって、異言語へなじみやすくなり、好奇心も高まり、人間と文化とのつながりを理解しやすくなるそうです。異言語を学ぶ際は、単に言語だけを学ぶだけではなく、その言語の使われている地域の文化についても学ぶべきである、言葉でコミュニケーションするだけでなく、異文化に出会うことによって自分の文化を再認識し、文化の違いについて勉強するべきである、とエムデ氏は述べられました。また、異言語やコミュニケーションに関する誤解について、いくつか事例を挙げられました。異言語＝英語という単純な見方や、コミュニケーションをする際に完璧を求めすぎてしまうこと、文法さえおさえればよい、という考え方などです。エムデ氏はこれらのことをふまえ、改めて異言語学習の意義について述べられ、最後に、「よその言語を知らない人は、自分の言語についても無知である」というゲーテの言葉でこの講演を締めくくられました。エムデ氏は講演の中で、私たち日本人がよく使う「○カ国語」や「外国語」という表現を意図的に避けておられましたが、言語と国とが一对一に対応する日本は世界の中では極めて少数派であることを改めて感じました。今回の講演は、ドイツ語学を専攻している私にとって通ずることばかりで、参考になった部分も多く、大変有意義なものとなりました。

また、今回の講演では、コメンテーターとして、山口県立大学の渡辺克義先生をお迎えしました。異言語を学習するためには、その言語の用いられている地域にどれだけ興味を持つことができるかということが重要である、という先生のお言葉がとても印象的でした。



講演するエムデ氏



講演会の様子

TOPICS

国際協力銀行のインターンシップに参加して

■ 古谷 桂子 東アジア研究科 3年

私は、3月1日から29日まで山口大学と国際協力銀行（J B I C：旧日本輸出入銀行と旧海外経済協力基金が統合して設立）の交流協定に基づき、国際協力銀行のインターンシップに参加しました。

私がインターンシップに関心を持ったのは、以前留学した際に留学生の多くが大学時代に3ヶ月程度のインターンシップを大学時代に経験していたからです。彼らは、働くことに対して具体的なイメージを持って就職活動をしていました。一方、私は、働くことを漠然としか考えていませんでした。そのため、インターンシップの重要性を感じていました。

今回、国際協力銀行のインターンシップ生は、私を含めて4名でした。始めに1週間の導入研修が行われました。国際協力銀行の機能と役割やODA業務の概要について各部室の担当者から詳細な説明を受けました。具体的な案件については、討論する形態でした。研修は、少人数だったため、質問がしやすく充実したものでした。午前の研修後は、担当者の方と昼食を共にし、研修での議論をさらに深めました。仕事以外の話題もあり、現場で働く方々の様々な面を見ることができました。

私は、研究の対象が中国なので導入研修後、対中円借款担当部室と北京駐在員事務所に配属されました。また、他のインターンシップ生3名は、自分の興味・関心のある国であるバングラデシュ、インド、インドネシアに派遣されました。インターンシップ生全員に円借款の現場をみる機会が与えられたことから、国際協力銀行がいかに現場を大切にしているのかを知りました。

2週目は、開発2部1班（対中円借款担当部室）に配属となり、対中円借款や人材育成事業について研修を受けました。特に3月は、対中円借款に対す

る議論が高まっており、緊張感を持って業務に取り組めました。また、対中円借款の省別実績一覧表を作成する作業によって、1979年から現在までの対中円借款の案件に対する詳細な状況を把握できました。対中円借款の対象は、インフラ整備等のハードなものから現在は人材育成事業や環境保全等ソフトなものへ変化しました。

各配属先では、インターンシップ生に指導教官がつきました。私の指導教官は、年齢が近く何でも相談できる気さくな方でした。そのお陰で、日々の業務をスムーズに行うことができました。また、昼食や夕食を部内の方と一緒にし、仕事だけでなく多岐にわたって交流を深めました。仕事や将来に対するアドバイスを頂きました。1ヶ月間の研修が充実したものとなったのは、指導教官・関係部室の方々のあたたかいご指導のおかげでした。

3、4週目は、北京の国際貿易センタービルにある北京駐在員事務所で研修をしました。駐在員事務所は、駐在員とナショナルスタッフで構成されています。北京では、日本人学校に対する開発教育案や貿易ゲームなどの資料作成や広報戦略案の作成補助を行いました。北京出張中には、対中円借款の現場を見るために、駐在員とナショナルスタッフと私の3名で貴州省へ出張しました。貴州省で行われている人材育成事業のハード面の校舎建設の（貴州師範大学など3大学）サイト視察を行いました。その後、貴州省教育庁との協議に参加しました。実施機関と駐在員の方の熱心な話し合いの様子を見て、実施機関との話し合いがプロジェクトの成功に不可欠であることを感じました。その後、貴州大学で行われた第1回日本文化祭に参加しました。日本文化祭には、貴州省の各大学から大勢の学生が参加していました。その中でも弁論大会が最も

T O P I C S

印象に残りました。若い世代である私たちが、新しい日中関係を構築していきたいと強く感じました。

1ヶ月間のインターンシップを通して、大学では出会うことのできない多くの人と出会うことができました。大学院では、年齢も関心も似た人との交流が多いのですが、研修では、年齢や関心も異なる人と共に仕事をし、議論し視野が広がりました。山口大学内には、インターンシップ関連の掲示が多く、夏休みなど長期の休みを利用して、ぜひインターンシップに参加してほしいと思います。大学で学び、インターンシップで自らの力を試して、自分の将来を考えるきっかけにして欲しいです。



円借款による貴州師範大学校舎建設現場の視察（筆者：真ん中）



貴陽医学院の建設現場の視察（筆者：左）



貴州大学日本文化祭
（北京大使館、重慶総領事館、JICA、青年海外協力隊の方と）
（筆者：左から3人目）



貴州省教育厅とJBICの協議
（筆者：右から3人目）

私の授業

『生物・物理・化学』

右田 たい子 教授
農学部生物機能科学科

ライフサイエンスは多次元の世界

「生物機能を科学する」という学科で、ゆうゆうらくらく卒業にこぎつけるためには、まずどんなことが身についていけばよいのだろうか。この問いへの答えは、「数学・物理学・化学そして生物学の基本的な考え方と知識」です。私たちが日々、多くは無意識のうちに、さまざまな能力を総合して“生きている”ことから考えても分かるように、生命の営みは、無数のさまざまな事柄や現象が相互に係わり合い影響を及ぼしあいながら、なされています。生命体が気の遠くなるほどの時間をかけて生み出した巧みな機能の秘密を解き明かすには、種類の異なる多くの“道具”が必要なのです。つまり、視点の異なるさまざまな考え方に基づいて工夫された理論・装置・技術を駆使して生命体の機能に迫って、初めてその秘密が明かされるのです。そういう意味で、ライフサイエンスは、単に生物学的分野だけでは捕らえきれない、多次元の世界なのです。すなわち、そのような多次元の世界に踏み込むためには、自然科学の全ての分野の基礎が必要だということです。

生命現象を物理と化学の言葉で解き明かす

私の担当する「生物物理化学」という科目の目的は、「生命現象を定量的に捉える」ことの有用性を理解してもらうことです。具体的には、生命体を“常に秩序を保とうとするもの”とみなし、物理学に基礎を置く「熱力学的系」として捉え、生命体以外（外界）との物質やエネルギーのやり取りについて、数学的に解析することを学びます。すなわち、生き物＜生物学＞を対象とし、そこで起こる物質の変化＜化学＞を、数学を手段として使って物理学の方法で解析するという、まさに自然科

学のハイブリッドともいえる分野です。限られた講義時間の中で、主に、生物が生命を維持するためにエネルギーをどのように生み出し変換しているかを扱う、“生体エネルギー学”を中心に講義しています。

高校レベルの数学・物理・化学・生物の持つ力

熱力学を本来の美しい数学的体系を損なわずに紹介し理解してもらうには、学生の側に「解析学」の知識がどうしても必要です。一昔前までの大学の教養過程では、理系の学生には“解析概論（微分積分学）”は必修とされていましたが、現在では“数学”は農学部の学生にとっては数ある選択科目の一つとなり、大学で数学を履修する人は少数派になっているようです。そんな中でぎりぎりの譲歩をして、「生物物理」の体面が保てる“数学を駆使した”講義を組み立てようと工夫しています。一方でこの科目は、対象である“生化学的現象”についての知識と興味を持った上で学ぶのでなければ、まさに机上の空論になってしまいます。そこで、やはり理解の助けとなるのは、高校で身に付けた数学・物理・化学・生物の基本的な考え方と知識です。特に数学については、数学Ⅲ・Cまでの範囲を理解していれば、ほんの少しのジャンプで「生物物理化学」の講義を十分理解してもらえることが分かってきました。毎年数人ですがこのようなジャンプができる学生がいてくれることが、講義をする側の励みになっています。

知識は総合してこそ力となる。

成績が振るわないことの理由に、高校で「物理」や「数Ⅲ・C」を履修していないことを挙げる人が多いですが、確かにそれは「生物物理化学」の受講にとっては不利な条件になります。しかし、生物学や化学の基本的な考え方や知識が本当に身についていれば、それはかなりの部分で物理の不足を補ってくれますし、数Ⅱ・Bまでの力が十分あれば、

講義内容にそれ以上の数学的展開が入ったとしてもそれほど無理なくついてゆけるようになっていきます。つまり、ないものはあるもので補いつつ、必要に応じて自助努力で補うことです。単に教えてもらうことを鵜呑みにするだけでは、本当の学問は身につけません。新しい考え方・知識が身に付けば、新しい世界が見えてきます。それが、学問をする楽しみであり、意義であると思います。

連絡先

TEL:083-933-5863

E-mail:ctmigita@yamaguchi-u.ac.jp

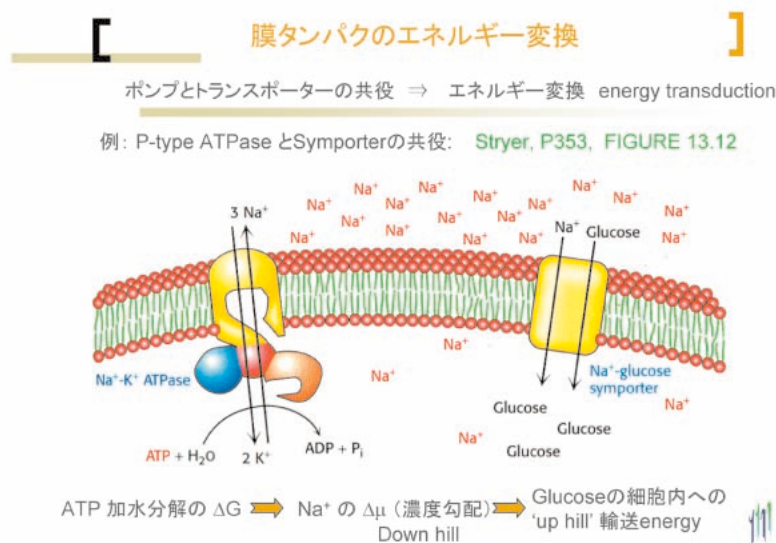


図 講義のファイルからの抜粋。

講義で使われたPptファイルは農学部ホームページ教員個人ページから、自由に閲覧しダウンロードすることができる。

私の研究

ミュージアム・マネジメント、生涯学習とまちづくり、大学開放をテーマとして



長畑 実 教授
エクステンションセンター

はじめに

私の専門分野は、博物館学、社会教育学です。所属するエクステンションセンターは、「山口大学が持つ人的、知的資源の有効な活用により、地域社会との多様な連携を推進し、地域の教育・文化の振興を支援するとともに、社会貢献を通して地域に開かれた大学をめざす」ことを理念として平成15年4月に開設されました。現在、各学部・校内施設等と連携して、公開講座、出前講義、高大連携、自治体と連携した生涯学習推進、まちづくり支援、観光活性化など多彩な地域貢献事業を展開しています。

変革を迫られるミュージアム

今日、日本国内の博物館数は7,000館を超え、世界有数の博物館大国と言われています。しかし近年、多くの博物館で利用者数が減少を続けており、財政難による私立美術館の閉館、予算・職員の削減、指定管理者制度の導入などが行われ、日本の博物館はかつてない危機的状況に置かれています。こうした中、80年代以降欧米で本格的に展開されているミュージアム・マネジメントへの関心が高まり、

1996年に「日本ミュージアム・マネジメント学会」（会員数600名）が創設されました。学会では、マネジメントの視点から利用者起点のミュージアム経営改革をめざす理論と実践に関する研究を学際的に進めています。21世紀のミュージアムには、地域文化振興・生涯学習の拠点としての機能を発揮することが期待されており、住民の主体的な地域づくりと連携したミュージアム経営に関する理論的実証的研究への取り組みが求められています。

地方分権改革と生涯学習・まちづくり

地方自治の分野では、地方分権一括法の施行、「平成の大合併」と称される市町村合併、地方自治法の改正などの法制度改革が進められ、地方分権の推進、「自己決定・自己責任」に基づく住民自治の確立が課題となっています。しかし一方で、公民館等の社会教育施設では、民営化、予算・職員の削減、市町村合併による統廃合など深刻な影響も現れています。

これに対し、新しいまちづくりの動向として自治体の憲法ともいわれる自治基本条例の制定運動が各地で始まっており、地域自治組織の制度化とコミュニティ組織、NPOその他の民間セクターと行政との協働による地方自治改革の取り組みが進みつつあり、社会教育施設もその中で地域づくりの拠点として積極的な役割を果たしています。こうした全国の先進的な事例の調査研究を深め、山口県における住民を主体とした生涯学習とまちづくりのあり方を検討し、自治体社会教育・生涯学習担当部局との協働による新しい生涯学習・まちづくりモデルを構築するとともに、地域生涯学習システムに関する実証的調査研究を行う計画です。

大学開放に関する調査研究

大学開放（University Extension）は、19世紀後半

のケンブリッジ大学から始まり、欧米では100年以上の長い歴史を有しています。特にアメリカでは継続教育の分野で一学部を構成して活発な教育活動を行い、大学経営を支える部門へと発展しています。日本での大学開放の本格的な取り組みは、ユネスコやOECDによる生涯学習体系への移行が提唱されてからのことです。文部省通知「大学開放の促進について」（1964年）を契機として大学公開講座は広く普及され、今では全国で年間89万人の市民の方が受講しています。大学開放の新しい動向として、学生対象の通常講義を市民に広く開放する取り組み（授業開放）も信州大学、静岡大学、鹿児島大学、熊本大学など多くの大学で始まっています。また、大学等高等教育機関の連携による大学コンソーシアムの設立が全国的に進められており、平成16年11月には28の地域コンソー

シアムが加入する「全国大学コンソーシアム協議会」が設立され、学生の単位互換等とともに、地域の課題に応える取り組みが行われています。

現在地域では、少子高齢化、人口減少、財政危機等多くの問題解決が求められており、これらの課題に地方国立大学がどう応えることができるかが鋭く問われています。2007年からの「大学全入時代」を目前にして、大学間競争に生き残りさらに発展していくために、地域から支持される創造的な地域貢献事業の構築が喫緊の課題となっているのです。今後、地域生涯学習システムの構築に係る実証的調査研究を通して、大学と地域の連携のあり方、大学開放の新たな方向性を探究していきたいと考えています。

連絡先

TEL&FAX:083-933-5082

E-mail:nagahata@yamaguchi-u.ac.jp

私の研究

宗教性を捉えるハードル

ジュマリ・アラム 助教授
人文学部人文社会学科人間論コース

大前提

私は宗教学を専攻しており、宗教について研究しています。最近では、一般の人々が抱えている「宗教心」と「宗教意識」（または「宗教性」）について探求しています。特に、私の出身国であるインドネシアと日本を比較するという観点からです。といっても、人々が宗教心や宗教意識をもっているとかもっていないとか、高いとか低いとかということではなく、「いかにして人々の宗教性を可能な限り深く捉えて語ることができるのか」という方法論的な課題も含む研究です。

宗教性そのものは、誰もが感情、感性、知性、言語能力などをもっているのと同じように、人類にとって普遍的・内在的なものです。宗教学ではこうした「宗教的なヒト」のことを、ホモ・レリギオス（Homo Religiosus）と呼ぶことがあります。もちろんその表現（どのようなかたちでそうした宗教性が生活の中で表されるのか）は、個々の文化やさまざまな文脈の制限を受けます。つまり宗教性は、人間にとって生得的なものであると同時に、文化的に学習される経験的なものでもあります。こうした見方は、私の宗教学の大前提であります。

ただ、この誰にも備わっている宗教性とはいったい何なのか、ということについては、必ずしも明確な解答があるわけではなく、また、それがなければ研究が進まないというわけでもありません。「人間の美的感性とは何か」について、手に取るような図式がなくとも、われわれは美学や美術について学んだり研究したりできる、ということと同じと見てよいでしょう。

日本の人々の宗教性を捉えるハードル

よく日本の社会意識調査などで、「あなたは神

や仏を信じていますか？」「あなたは霊的な存在を信じていますか？」「あなたは何か特定の宗教を信じていますか？」などといった宗教に関する問いが質問票にたくさん出てきます。そして回答欄には、「信じている」「わりに信じている」「あまり信じていない」「信じていない」といったような選択肢が見られます。大きな機関が実施する調査ならば、いつしか調査報告書が活字化され、たとえば「宗教心／信仰心を明確にもっている日本人は3割にしか満たず、7割以上の欧米諸国に比べると、とても低い」とか、「その反面、先祖・諸霊との関係やそうした信仰に関する慣習的な行為に携わる人の割合は、決して少なくない」という結論が、日本人の宗教性の包括的な姿であるかのように語られます。

こうした調査の不十分さについては、あえて分析するほどのことではありません。宗教とは、内面にある心的なものが、何らかの表象や外界の対象と結びついて、顕現される動的な過程や相互作用のことを言うのであって、特定の表象や外界の対象との固定的な関係のことではありません。このことを、20世紀における宗教学の巨匠エリアーデは「ヒエロファニー」（聖なるものの顕現）と呼びました。したがって、神・仏・霊・宗教（または教団や宗派）を明示的・意識的に信じていないことが、宗教性の低さを指標していることにはなりません。

ただし、幸か不幸かはわかりませんが、日本では、「宗教心がない」とか「宗教と関わりがない」とかいう言説は、マイナスではなく、ややプラス（または無難で正常な状態）の評価が付与されるという社会的風土が存在します。これは、とりわけ戦後を機に一層高まったある種の反宗教的または宗教抑圧的な空気、あるいは思想の単一化と天下りの流れの一面として見てもよいと思います。しかしながら、こうした空気そのものが、今度は逆説的に、一つの聖性と宗教性を暗示的・無意識的に帯びているということも、見逃すことができません。これは日本における、とても根の深い宗教的・思想的背景であり、日本の国家と社会が今日直面しているさまざまな問題とも密接するものと見ます。

インドネシアの人々の宗教性を捉えるハードル

インドネシアはジャワ族が約6割を占める民族

構成になっており、民間信仰やシャーマニズムが古くから栄えていますが、公式的にはイスラム教とキリスト教が大多数の宗教となっています。またそれが多くの人の、＜建前の＞宗教アイデンティティーや宗教意識を構成しています。この場合、民間信仰やシャーマニズムは、公式的には宗教とは認められず、宗教外の「信仰に関する習俗」として扱われているのです。学校での教育や公の儀式的場においては用いられるべきではない、という一般的なコンセンサスが成立しています。また、宗教に関する事柄を管轄する行政機関として宗教省（宗教大臣が担当）が存在しますが、管轄範囲はイスラム教、キリスト教、ヒンドゥー教、仏教にとどまっています。

したがって、インドネシアにおける宗教の捉え方には二つの際立った特徴が見られます。一つは、宗教とは必然的に「世界宗教」を指すものだという見方です。もう一つ、国民（または人間）誰もがこうした意味の宗教に、＜明示的・意識的に＞属するのが当然だという見方です。後者の特徴は、「唯一神を信ずる」という国是の第一項目としても掲げられ、また、日常生活においては、お互いの宗教を確認することや、さまざまな手続きの記入欄に個人情報として宗教欄の記入が求められるというスタイルにも、反映されています。

宗教学的な視点から見ると、インドネシアの人々の生活において、どの場面や枠組みが「聖なるものの顕現」としての宗教を物語っているのかということを探求しようとするならば、むしろ一般に非宗教的なものとみなされている領域のほうが顕著に機能しているかもしれません。こうした状況をあたかも「正す」かのように、20世紀の著名人類学者ギアーツは、ジャワの宗教を、イスラム教とイスラム教外のジャワの習俗（多くはイスラム教に反する要素を含む）からなっているという、重層的な宗教構造の枠組みを提示しました。ただしギアーツの構想は、そうした多元的な構造を固定的な分類のように捉えている向きがあります。同じ人間が一定の時間と空間の中で、複数の宗教的な要素を行き来したり組み合わせたりしながら宗教性を顕現しているという見方も、この場合は重要だと思います。「宗教性」は自然的・自発的なものを基底にしていますが、「宗教の分類」は恣意的・社会的なものだからです。

以上のように、私の「宗教性を捉える」研究は、

研究対象そのものの難しさより、そうした対象に対する、権威と影響力のある定義や枠組みの存在によって、容易ではない仕事になっています。日本とインドネシアはいずれも宗教性が豊かな楽園です。宗教を音楽に喩えていえば、両地域ではどの家でもどの村でも人々はいろいろな歌やメロディーを聞いたり口ずさんだりして生活しています。その真っ最中に私はうかがうのですが、ときには「残念だがここには音楽はない」と言われ、またときには、私が来た途端に定番の曲だけが延々と流されるのです。

宗教研究は、いつも訪問者の立場でいては成し遂げることができず、どこまで当事者になってその主観性を共有しうるかという点も、大事ではないでしょうか。



「錦町ふるさとまつり」で、山大のよさこい鳴子踊りサークル「よさこいやっさん」のメンバーと一緒にポーズ
＜2004年11月＞

連絡先

Tel:083-933-5220

E-mail:djumali@yamaguchi-u.ac.jp

<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/>

教員から寄せられた著書

「TOEIC®テスト最短最速攻略テク」

(株式会社二見書房 2005年7月25日初版発行)



最近のTOEICブーム、すごいですね。私としては歓迎ですが書店に並ぶTOEIC関係書籍の多いこと。そのどれも微に入り細に入り、全て落とさずに詳しく書かれています。

でも、それほど大変なものでしょうか、TOEICテストは? というのが私がこの本を書いた理由です。ゲーム感覚で押えるところをちゃんと押さえれば最初のテストで500~600点は簡単にとれるのです。一部のTOEIC専門家などという人がもっともらしく「100点上げるのに300時間の学習が必要だ」と公的に言っていますが、私に言わせれば100点上げるのに30時間で充分です。この本を読んで御自分の問題集を私の指示通りにやるだけで大丈夫です。

この本の特徴

1. CD2本に私自らが実際の授業風に吹き込んでいます。(他に類はありません)
2. 全てのパートをゲーム化して簡単に組み組めるようにしています。
3. ポイントのみに絞って大幅に無駄を省きました。(900点以上を狙うわけではないので)



山根和明 助教授 経済学部経営学科

TEL:083-933-5568 E-mail:yamane.k@yamaguchi-u.ac.jp



新聞掲載された山大・地域から見た山大

5月

- ◆ 美術教師は制作活動忘れずに・・・
一故山大名誉教授の友近さんー
小郡での個展一度は中止に 教え子たちが再開
(読売:2日、朝日:3日)
- ◆ 憲法を語る 》下《
平和教育 大学の役割大
一山口大教授 瀬織厚さんー
(朝日:3日)
- ◆ 高輝度白色LEDで研究協力
山口大と三菱化学合意 医療機器実用化へ
(読売:5日、朝日:13日)
- ◆ 看護の日をPR
山大医学部附属病院 来院患者に記念品
(朝日:11日)
- ◆ 秋吉台だより 5月①
山口大教育学部の阿部弘和教授の解説をもとに紹介
(朝日:13日)
- ◆ 山口大マンドリンクラブ
スプリングコンサート (サンデー山口:13日)
- ◆ 山口大の劇団笛
15・16日 (サンデー山口:14日)
- ◆ 教員志望の山大生と生雲小
一交流事業スタートー 今年度もよろしく
(山口:17日)
- ◆ 欧州の多言語政策
一山口大学人文学部異文化交流研究施設ー
(サンデー山口:20日、朝日:26日)

6月

- ◆ ひろば
東桜島小学校ありがとう 一山口大学 山本哲朗氏ー
(南日本:4日)
- ◆ 小学生向け防災本執筆
山大の山本哲朗教授 対処法など紹介
(山口:4日、読売:8日、毎日:13日)
- ◆ 山口大系など3件選定
国、製造業の人材育成で
(日経:8日)
- ◆ 地球科学コース
一山大理学部ー
JABEE認証 技術士の1次試験免除
(朝日・山口・中国:10日)

- ◆ 大学生が英語で激論
姫山杯ディベート 対戦チームに持論を主張する参加者
(読売:12日)
- ◆ 発達障害をメディアに問う
取材記者ら4人が発表 26日に山口大でシンポ
(毎日:16日)
- ◆ 山大農学部と県研究3機関
農林業振興へ連携 推進会議を設立
(山口:17日)
- ◆ 創立100周年祝う 一山口大経済学部ー
記念式典にOBら200人 (読売・山口:19日)
- ◆ 山口の教育史たどる
松野さん(山口大経済学部同窓会「鳳陽会」理事長)出版
(山口:21日)
- ◆ 医療最前線
怖い『心臓突然死』について専門医座談会
初期兆候あれば専門医に相談を
医学部附属病院 院長 松崎益徳氏
医学部保健学科 教授 清水昭彦氏
(読売:25日)
- ◆ 防災授業
一工学部社会建設工学科教授山本 哲朗氏に聞くー
自然災害の恐怖
防止策の再確認・迅速な連携を測る共通認識
土砂災害や浸水被害
(読売:25日)
- ◆ HIV検査やエイズ学習を
一山大七夕祭で実施ー (山口・サンデー山口:26日)
- ◆ 山口大学で親子対象のIT教室
(サンデー山口:26日)
- ◆ 記者が取材体験語る
山大で発達障害シンポ
(朝日:28日)



学長イラスト (施設企画課 専門員 河田作)	ランチタイム の風景
南門風景	七夕祭
入学生セミナー (各学部)	キャンパス風景 (人文学部)

表紙 デザイン・写真

人文学部 社会情報学講座
教授 坪郷 英彦

発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場

山口大学公開講座

2005年度 受講生募集のご案内



YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学



山口大学エクステンションセンター

平成17年度公開講座のお知らせ

講 座 名	受講対象者	開設期間	時間帯
やまぐちサタデー・カレッジ2005 現代文化コース「現代アメリカ社会と歴史」	市民一般・学生	10 / 8～10 / 29 (毎週土曜 計4回)	14:00～15:50
やまぐちサタデー・カレッジ2005 外国語学習コース(中国語)「中国語発音教室」	市民一般・学生	10 / 8～11 / 26 (毎週土曜 計8回)	15:40～17:10
やまぐちサタデー・カレッジ2005 やまぐち学コース「山口と吉敷郡に刻まれた中世史」	市民一般・学生	11 / 5～11 / 26 (毎週土曜 計4回)	14:00～15:30
「おくのほそ道」を読む	市民一般	5 / 7・21、6 / 4・18、7 / 2・16	14:00～15:30
小麦栽培から始めるパンづくり	市民一般	6 / 1、8 / 24、11 / 9	10:00～15:00
手作りおもちゃ教室	保育士・市民一般	7 / 23～7 / 24	10:00～16:00
2005年夏季小学校・中学校教員のための英語・国際理解指導者研修会	小・中学校教員、英語・国際理解教育指導者養成に関心のある方及び学生	8 / 2～8 / 6	10:00～16:00
理科実験講座	小・中学校教員	8 / 8～8 / 9	9:00～16:00
木工入門	市民一般 (小学生以上)	8 / 26～8 / 28	8:30～12:30
ヒューマンスクール ―宗教と文化―	市民一般	10 / 5・19、11 / 2・16・30、12 / 14	13:30～15:00
山口4億年史―大地の恩恵と災害―	市民一般	10 / 8～11 / 26 (毎週土曜 計8回)	10:00～11:30
防府市との連携講座「生活習慣病と運動」	市民一般	9 / 10・17 10 / 8・15・22・29	10:00～12:00
中高年者の健康づくりのための運動指導講座	地域で中高年者を対象に運動指導を行っている方	11 / 5	10:00～16:00
癌を知り、克服するために	市民一般	11月開講予定	未定

お申し込み・お問い合わせ

山口大学エクステンションセンター

〒753-8511 山口市吉田1677-1

TEL (083) 933-5150 FAX (083) 933-5154

E-mail:kyoutu@yamaguchi-u.ac.jp

編集後記

今号の特集テーマは「オープンキャンパス」です。コピーは「来て見て 山大！！」としました。大学の広報誌のコピーとしては少し俗っぽいかもしれませんが、しかし、その大学の良さは世間一般の評価や外観だけではわかりません。実際に訪れ、そこで学び、働く人々の話を聞き、施設・設備を見る、内部の雰囲気を確かめる、言い換えればその大学の空気に直に触れることで初めてわかるものだと思います。

本号の読者としては、山大受験を希望する人あるいはその関係者を念頭に置いています。また、山大に何らかの興味関心を持っている人たちをも視野に入れています。この特集号によって、そうした人たちに山大の良さ・魅力が少しでも伝われば幸いです。そしてさらに、読者の皆さんには特集記事だけでなく、後半のトピックスにもぜひ目を通していただきたいと願っています。これらもまた、山大をいっそう理解する手がかりだからです。

編集担当：教育学部 杉山 緑

◎山口大学ホームページ<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

山口大学広報第七十六号

平成十七年七月二十九日発行

編集発行 山口大学広報戦略委員会

(総務部総務課)

住所 山口市大字吉田一六七七一

電話 (083) 933-5007

FAX (083) 933-5013

E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp

印刷 株式会社三共印刷

広報戦略委員会委員

大坂 英雄 (企画広報担当副学長)

小谷 典子 (人文学部 広報担当副学長補佐)

坪郷 英彦 (人文学部)

杉山 緑 (教育学部)

藤井 大司郎 (経済学部)

白石 清 (理学部)

武藤 正彦 (医学部)

三浦 房紀 (工学部)

山田 守 (農学部)

長畑 実 (大学教育機構)

瀧本 浩一 (産学公連携・創業支援機構)

糸長 雅弘 (学術情報機構)

杉井 学 (学術情報機構)

井上 重巳 (事務局)

仁科 幸雄 (事務局)